

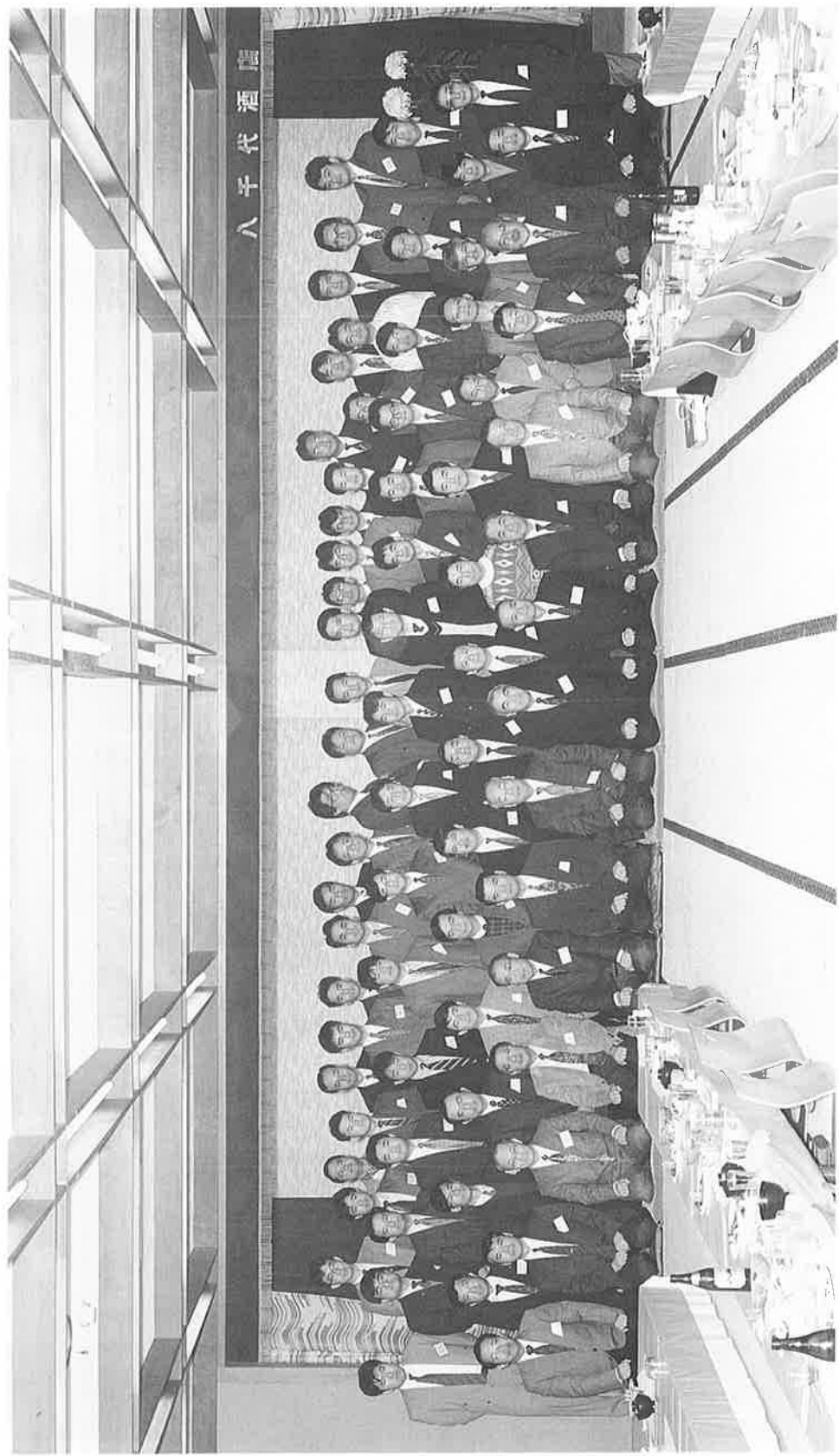
宮崎医大整形外科

同門会誌

第 7 号

平成7年12月

宮崎医科大学整形外科学教室同門会



宮崎医科大学整形外科学教室同門会総会 平成6年11月26日 於 魚よし



宮崎医科大学整形外科教室新入医局員歓迎会 平成7年6月10日 於ホテルプラザ宮崎



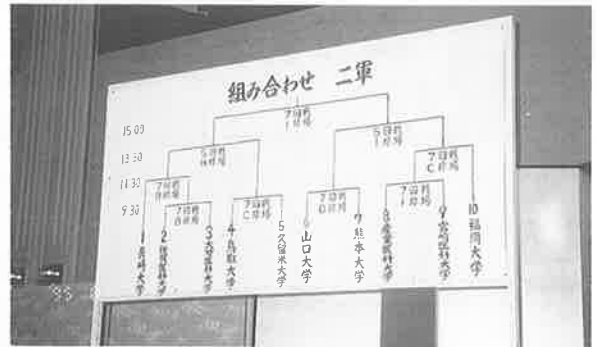
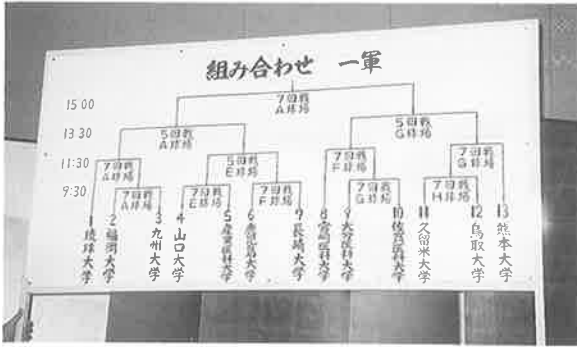
平成7年度整形外科医局旅行
平成7年11月2日～3日
日南・北郷フェニックス



この笑顔をご覧ください



第38回西日本整形外科学教室親善野球大会
平成7年8月6日（於 福岡市）



頼もしい応援団



2軍優勝おめでとうございます。この笑顔いつまでも





玉井元学長のご講演



田島教授 玉井元学長 木村前教授



新入医局員です。宜しくお願いします。



新賛助会員の先生方



会長を囲んで

平成7年度宮崎医科大学
整形外科学教室同門会講演会・
忘年会・ゴルフ大会
平成7年11月25日(土)・26日(日)
(於：宮崎観光ホテル)



同門ゴルフ (於 UMK カントリークラブ)



玉井杯は三股先生に

目 次

巻 頭 言	教授 田島 直也	1
ご 挨拶	会長 河野 雅行	3
会 員 寄 稿		
ざんげ列島	木村 千仞	5
最近思うこと	市原 正彬	7
趣味	矢野 良英	9
日本人の甘え	押川紘一郎	11
開業は慎重に	千代反田 修	13
開業してみて	松本 宏一	14
「熟練」(skill) ということ	中村 誠司	15
横浜労災病院紹介と近況報告	田中 正一	16
『阪神大震災と免停』	匿名 (K.M)	17
熊本より近況報告	寺本憲市郎	18
食欲の秋に	松岡 知己	19
施 設 紹 介		
宮崎県身体障害者相談センター	黒木 俊政	20
諸塚村国民健康保険病院	福元 洋一	23
県立こども療育センター紹介	渡邊 信二	24
県立延岡病院研修状況	山本恵太郎	26
医 局 便 り		
医局長雑感 (この一年を振り返って)	帖佐 悦男	27
BAK ヨーロッパツアーに参加して	黒木 浩史	28
ヨーロッパ整形・災害外科学会 (スイス留学) に参加して	帖佐 悦男	29
初優勝— Where there's a will, there's a win —	樋口 潤一	31
医局旅行	作 良彦	33
大学病院勤務第2ラウンド	渡部 正一	34
新入医局員紹介		35
教室同門の研究業績		40
同門会員名簿		59
賛助会員名簿		73
編 集 後 記		

巻 頭 言

田 島 直 也



平成7年を振り返ってみると、社会的には関西大震災、地下鉄サリン事件と経験したことがない大事件が起こり、社会的問題となりました。

また、日本整形外科学会でも、天児民和先生、近藤鋭矢先生、森崎直樹先生、三好邦達先生らの名誉教授のほか、新名正由先生、萩原義郎先生らの現職教授が亡くなられるというご不幸が起こり、全く言葉もありませんでした。ここに改めて心からご冥福をお祈り致します。

さて、宮崎医科大学は、昨年開学20周年をむかえ、整形外科学講座の方も開講20周年になり、創設の第一期を終わり、今年は新たな飛躍に向けての一年目となりました。入局者も今年は九人であり、10月からは教室にとり第一号の女医さん（深野木君）が入局して新たなスタートとなりました。全国的にも女子医科学生が増えていて—今年度女子学生の入学が50%以上の大学もあります—時代の流れでもあり、今後女性の入局希望者も出てくることも予想されますが、立派な整形外科医に育ってみたいと思っています。

さて、研修医、研修制度を取り巻く環境は、従来にもまして厳しく、国は従来ストレート方式からローテイト方式を求め、また初期研修二年間の義務化、医師免（保険医）は二年後に交付とかの意向もあり、今後問題になってくると思われます。また、日本整形外科学会の研修制度も未認定医の教育研修講演受講のほか、研修病院には複数の認定医が必要との話題もあり、宮崎医大も教育研修病院の充実が切実な問題であります。

大学の使命としての教育、研究、診療の3つのうち、教育、診療はどうか教官中心に行っていますが、問題はやはり研究面であり、ハード（施設）、ソフト（組織・時間・人）とも不足しております。毎週リサーチカンファランスを開いて各々の途中経過等の発表をしてもらっていますが、当分こつこつ積み重ねていくしか名案はありません。

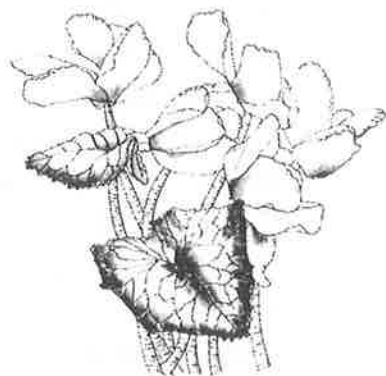
研究面は脊椎（特に椎間板を中心にして）、バイオメカニクス、生体工学、新しい Instruments の開発、スポーツ医学の基

礎的臨床的研究を中心に続けて行きたいと思っています。

来年は、11月に第30回日本側弯症学会を行うことになっていて、8月には第3回西日本整形外科スポーツ医学研究会、第39回西日本整形外科学教室親善野球大会を宮崎で開催予定で、何かと慌ただしくなってくると思います。

今後とも同門の先生方のご支援ご協力を心からお願いします。

最後になりましたが、先生方の御健勝を心からお祈りいたします。



ご 挨拶

河 野 雅 行



皆様お変わりなくお越しの事とお慶び申し上げます。様々の雑事に逐われているうちにまた1年が過ぎようとしております。

本年は大きな学会等もなく目立った同門会活動は有りませんでした。同門会にとりましては久々に大過無く過ぎた年でした。皆様にも例年になく御無理をお願いせずに済みまして安堵しております。

例年のように会員の動向をご報告させていただきますと、春より新しく9名の先生方に入会していただきました。歓迎いたします。

現在のところ正会員90名賛助会員32名で、合計122名となっております。つい先日100名に達するのが待遠しいというようなお話をしたと思いますが、何時の間にか遥かに超過しております。誠に喜ばしいことです。

一方所帯が大きくなりますと様々な問題も出てまいります。

善かれ悪しかれ組織として認知される事になる訳ですから、注目される度合いも高くなってまいります。組織としての行動力が大きくなり発言力も強くなる反面、当然ながら様々の義務や社会的な責任も増えてくるものと推察されます。

組織としての力も旨く使われなくては充分発揮できずに無駄使いに終わるでしょう。組織力を有効に使う為の最大公約数は、会員相互の理解と協力だと考えます。各個人が今まで以上に自覚して私達なりに社会のニーズに応える必要があります。

新規開業は麻生先生が昨年11月に高岡町でされております。地域の患者さんの為に末永く頑張っていただきたいと思っております。

教室には待望の助教授として桑原先生が御就任されました。いままでも教室内で御苦勞されていましたが、最高の活躍の場を得られました。対外的にも、教室内でも体制が整い充実した研究成果が期待されます。

21世紀に向けての教室作りの基盤が整ったと申せましょう。

田島教室の仕上げとして、ますます実績を挙げて戴きたいと期待しております。

社会的には国際的にも国内的にも天変地異・人為でも大変騒

がしいことでした。今までの太平のつけが一度に吹き出した感があります。

諺にもいわれておりますが、“油断大敵”を正に地で行ったようでした。

私どもも何時どのような災難が待ち受けているか解りませんが、出来る限りの備えと心構えは持ちたいものだと考えております。

来年度もますます皆様方の御活躍を心楽しみにしております。





ざんげ列島

木村千仞

今年は、阪神淡路大地震・オウム真理教事件など近來まれな大きい変事が続いているが、第2次大戦後も世界のあちこちで内戦や緊張による揉めごとが絶え間ない。わが国でも今年には戦後50年の節目ということでTVや新聞、その他で総理をはじめマスコミの異常とも見えるざんげやお詫びの連発が目を引いた。一方これに対する批判も一部にあったようである。

ところで私は、幼時期から17歳迄、父の仕事（官史）の関係で北朝鮮平壤で過ごした。いわば戦中派である。昔の記憶では4歳時（昭和6年）母と街に買物へでかけた折、少し離れた場所で、棒・刃物・鍋などを持った数十人以上の朝鮮人が支那人街へ押しかけ暴動となった恐ろしい光景を今でも覚えている。今にして思えば、これが1931年7月2日に起こった満州での万宝山事件（当時の言葉で言えば支那人と朝鮮人の水争い）の報復事件であったと思う。これを日本軍の謀略的リークと考え、柳条湖事件、満州事変へと発展し、五族協和、皇道樂土建設を旗印とした満州建国の障害の一つである民族間不信感となって支那事変（昭和12年）へ発展していったのであろう。他方、欧米諸国の東洋植民地獲得に起こり、ロシアが遼東半島や満鉄を狙っていた情勢を阻止する為もあったのであろう。こうして昭和16年、第2次世界対戦へとつながったわけだが、軍事政権下ではほぼ国民はマインドコントロール宜しく何も疑う術を持たなかったことは事実である。

戦争は些細なきっかけから始まるもので、支那・

朝鮮両民族間の水争いから拡大、日本官憲の陰謀と思われた万宝山事件や中共側が画策したとする。濾溝橋事件が世界大戦へ拡大し、各国の野望・謀報の渦が地盤となって殺し合いに至ったのは、全く不幸である。その罪は双方にあるわけで敗戦国のみにあるわけではないが、一時的にせよ大変迷惑をかけたことへのざんげは忘れてはいけぬ。

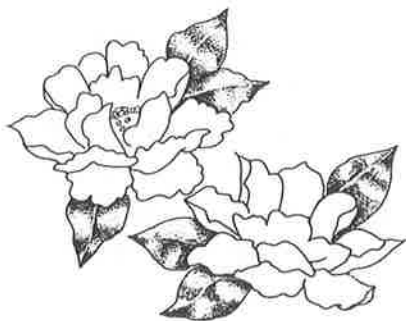
それにしても終戦50年の節目ということで今日のTV・マスコミの報道、閣僚のざんげは、いささか気になってる人も多い様だ。戦争の経験も時代の真相もろくに知らない連中が、ごく一部の事件・慰安婦問題を誇大して煽っている気配が鼻につく。

戦時中、戦後、知人・友人の体験談も数多く聞いた。確かに軍人の横暴、兵隊たちの蛮行はあった様だが、終戦間際のソ連侵攻とは異なり、部分的なもので日本軍全てではなからう。終戦迄の朝鮮半島のムードは日本人と何等変わらず、表面的には友好的で差別はなかった。確かに一時期表札名が高峰三枝子や金田某など邦人名に変わったし、遊廓が空になった話は聞いたが、勤労働員・女子挺身隊、軍徴用要員など吾々日本人と全く平等であった。台湾・朝鮮・満州など外地へ赴いた当時の日本人は、侵略という意識はむしろなく開拓という精神で産業・経済・文化ならびに生活水準の向上に貢献したと考えていいだろう。終戦時のロシア軍、現地兵一部の現地人らによるシベリア抑留、暴行、略奪そして死の逃避行、恐怖の難民体験、引き揚げを止むなくされた何十万人かの邦人、現

地で死亡した多数の邦人は、もし存命ならば現状の日本の在り方をどう受け止めるだろうか。

蒋介石も述べたように「戦争である以上、双方共、罪を犯している。それ以外のことで悪質な者を処刑したい。」というのも彼らしい意見である。

戦後50年の夏のざんげ特集を見ててやや上滑りの感じがあり、日本の政治家・ジャーナリストはもっと史実を広く深く調べて、我々に知らせ対処して欲しいと思う。





最近思う事

市原正彬

本を良く読みます。乱読、本屋へ行って面白そうなものを見つけて、数冊買って帰り、面白い本に当たると外来で診療中でも早く帰って続きを読みたいと気もそぞろになります。読み終わると又、本屋へ。

信長、秀吉、家康のものは、吉川英治に始まって山の様に読みましたが、先日から又「津本陽」作の信長・秀吉を読みました。

秀吉の朝鮮侵略のくだり（昔は朝鮮征伐と云っていましたが） 作者は資料を豊富に使い、原文のまま載せていますので信憑性のある話だと思っ

ていますが、日本軍の残虐な事、目を覆うばかりで、今日韓国の人々が第二次大戦前後の事も含めて、色々云ってくる事の裏には400年前の日本人の乱暴、狼籍が今尚脳裏から消え去っていない事に由来しているのではなからうかと思った事でした。

ジンギスカンが西進し、東ヨーロッパ迄攻め入った時の小説では、彼等は純粋な蒙古人の数が非常に少ない為、歯向ってきた国を進攻陥落させた後は、又攻められない為、皆殺しにして全て死体の山にし、人間と一緒に家畜である犬もニワトリも一緒に首を切って積み上げ次の進攻地へと進軍していったという話は何となく800年昔という事もあり、ユーモラスで滑稽味を帯びていましたが、信長・秀吉の国内外での戦は本当に激しい残虐極まりない殺し方で、現代の我々が腰が痛い、膝が痛い、指にケガしたのとその治療に血道をあげている事が馬鹿に思える程の乱暴な話の数々です。その例として信長の妹、お市の方の旦那様の

母上が信長に歯向ったのが頭に来て、指を全部切り離して生き埋め（首だけ出して）にして、その目の前に落とした指10本を並べて（何の為でしょうか）人々にノコギリ引きで数日かけて死に致らしめたとか、信長の奥方（帰蝶）の父上（マムシの道三と呼ばれた人）の孫龍興が信長に滅ぼされた時、城から人を釜茹でにして殺した大釜が幾つも出てきたとか、捕虜の殺し方の1つに、人を吊して一刀の元に腰部を切断すると頭の重みでグルリと一回転して頭部が下になった所を又、一刀の元に首を切り離す方法とか、とにかく数え上げればキリがない残虐さで、一体日本人てこんな民族、私達はこういう人々の子孫であったのかとビックリしています。人間というのはどこ迄残虐になり、どこ迄仏様みたいにもなれるのでしょうか。その振幅の大きさに今更ながら驚いています。オウム真理教の教祖が平然と（？）人をボアさせて、それを衆人監視の下で行ったという事は現代の平和な日本社会では信じられない恐ろしさですけど、しかし自分だってカメムシ（熊本でヘフリムシといます）を見つけると平気で臭いと言って殺し、必死で逃げるゴキブリを半分快感をもって、ハエタタキで叩き殺しています。ヘフリムシ・ゴキブリの悲鳴がきこえないという丈の理由で、人間は自分の目障り、邪魔なものは平気で疎外する残虐性をもっているのでしょうか。程度の差こそあれ。昨日若者3人が面白半分に、ホームレスの老人を橋から落して、死に至らしめたニュースを流していました。死に至った人も、子供の頃は親から目

の中に入れても痛くない程、可愛がられ、若い時代は学び、鍛錬し、希望に燃えた人生を送った人かも知れません。老いて人生に絶望してホームレスになったからといって、誰にそれを蔑み、殺す権利があるのでしょうか。全ての努力が一瞬にして「無に帰す」理不尽な死を強制される事は、本当にごめん被りたい事です。

我家の愛犬ロンが平和な顔で、窓の外から主人である私を、ジッと見つめているのを見ると、とにかく穏やかで平和な日本が、否、世界が、続いて欲しい事だと思います。

若くして早くも老いつつあるアメリカの後を急速に成長して、殆んど成熟しないままに、老境に入りつつある日本が追いかけている様な気がします。

政治家もお役人も、そして我々庶民も真剣に日本の将来を考える時ではないかと思います。先日、直木賞受賞作「マークスの山」を読み終えました。殺伐とした殺人と、その謎を追う刑事。次は心温まる恋愛小説でも読んで、しばし心を現実から空想の世界（もう現実という年でもありませんので）に遊ばせたいと思う今日この頃です。





趣味

矢野良英

先日、桑原先生より、同門会誌に掲載する為の原稿依頼があり、何か書かねば成るまいと観念して、「親子診療」とか「二代目」とかいう題名を想定して書きはじめてみたが、何かと差し障りが有りそうで遅々として筆が進まず、原稿締切り日が、いよいよ明日に迫り一夜漬けで時間の足りない試験前日の心境です。

ここに至っては、趣味の話でもさらりと書いて任を逃れようかと考えていますが、これ一つとして奥義を究めたものが無いので、無趣味と言っていいのか、ひょっとすると多趣味なのか自分でも迷っている。

子供の頃から親しみ、前日の準備の時から何となく心がわくわくするのは、魚釣りである。最近、久しく釣りから遠ざかってはいるが、新聞を見れば自然とつり情報に目がいくし、テレビで釣り番組があれば好んでみる。いつか船でも買って釣りをしようとして小型船舶の免許は持っているが、時にそれとなく家内に匂わしてみるも実現には少し実績作りが必要なようで、串間の患者さんで釣り舟を持っている人の電話番号を手帳にメモさせてもらっている。常日頃、釣りざんまいをしてから死にたいものだと思っているくらいだから釣りが一番性にあう気楽な趣味なのかも知れない。

ところで、今一番時間を費やしている趣味は、スイミングである。八年前、家内が子供の教育の為、しばらくは夜はやもめの生活をしたが、その時に一念発起して、金槌に鞭打って始めたのが夜のスイミングである。二ヵ月位は、若い人に混じ

って恥も外聞もなく息継ぎの練習で苦勞をしたが、どうにかクロールで泳げるようになり、平泳ぎは前に進まなかったのが、いつしか見よう見まねで人並みに進むようになり、そのうち家内もスイミングに誘い込んで一緒に3～4年も続けると、古参になってマンネリ化し、厭きて中止していたが、下腹が目立つようになり、又、2年前から始めている。アスレチック、サウナ、ジェットバス、シャワー等の設備が在るので、気分の乗らない時は、銭湯にでも行くつもりでなるべく出かけることにしている。速く泳ごうとか、かっこよく泳ごうとか、何メートル泳ごうとか決してノルマは作らないようにしている。敢えて言えば、出来るだけゆっくりとリラックスして、息のあがらぬように少しでも長く泳げれば良いと考えている。コース貸し切り状態のときには1時間位休まず続けて泳ぐこともある。気が向けば少し筋力維持の為に、速く泳いだり、バタフライに挑戦したりしている。夫婦一緒にできて、日焼けや筋肉痛もなく、自転車で行き帰るまで一時間半位もあれば充分で、健康維持には最もいい趣味ではないかと思っている。

10年以上前、土、日に病院を離れられない日が多く、まだ体力に自信があったところで、病院からアマチュア無線の届く距離に二百坪位の畑を作って、「こまめ」という家庭菜園用の耕運機を買ってかなり本格的に種々の野菜を作ったが、先ず土づくりが基本で、農薬を使わないので次は如何に根気よく虫取りと雑草取りをするかで、成果が決

まる。一ヵ月から長くて半年位で、ずぶの素人でもある程度の収穫は期待できるし、土いじりというのは結構楽しく世間の煩わしさを忘れるには向いていると思う。作りやすいのは、ナスとかピーマンで2〜3本植えれば食べきれないくらい実りがあるでしょう。味にうるさい人には、トウモロコシやさやえんどうがいいでしょう。もぎたては甘味が違います。朝早く、日の照らぬうちに作業

が終わるように菜園を狭くして、今でも、野菜づくりを楽しんでいます。早朝の空気はうまいし、とりたての青菜の味噌汁は格別です。

アマチュア無線は、携帯電話やパソコン通信の時代になり昔の趣味となっています。他にゴルフ、山登り、料理、パソコン、CS放送等を楽しんでいます。





日本人の甘え

押 川 紘一郎

1987年、現在世界トライアスリートのあこがれとなっている、ハワイアイアンマンレースが開始された。第1回大会には、15人が参加し、12人が完走した。スイム3.86km、バイク180km、ラン42.195kmの過酷なレースの誕生である。そして、今年、優勝賞金10万ドルをめざし、20,000人の応募者の中から1,500名が参加を許され、10月7日ハワイコナで、この鉄人レースに挑んだ。

トライアスロンを愛する者にとって、この大会は最高目標であるが、参加資格を得ることは、一般の者にとって、ほとんど不可能である。がしかし、今年から、アイアンマンレースの前週に、オープン参加の大会が開催されることになった。レースのすべてを、ワイキキビーチと、その周辺を利用して行なわれる、世界初のメインストリート使用のレースである。

第1回ということで参加資格も甘かろうと申し込んだ。日本国内のレース経験しかない為、多少の不安はあったが、基本的に違いはないであろう。ただレース直前に届いた参加許可証に、スイムウエットスーツ禁止とあったのが気がかりではあった……。

ハワイ到着後、レース説明会は日本語通訳サービスもあり順調に進んだ。カーボパーティーもハワイアンの流れで、レースを忘れてしまう程の盛り上がりであった。

朝4時の受付けからレースは開催された。バイクチェック、ヘルメットチェック、ナンバーチェックと、前日までとは違った厳しさを進行した。

ビーチにひびく早口の実況が外国でのレースを実感させてくれる。選手に対して貴重なデータを伝えているはずだが、ほとんど聞きとれないまま、スイムスタートラインに並んだ。

ワイキキの海は日本と違っていた。沖合いに小さなオレンジのマーカーが2個かすかに見えるだけ。コースロープも、ブイも、そして、選手をサポートするカヌーも、舟も何にもみあたらなかった。

波はサーフィン最適の大波である。体ごと押し上げられた瞬間に、マーカーを確認し、ひたすら泳ぐ。波間に入ると陸地もみえなくなってしまった。リタイアを覚悟し、合図をおくろうとまわりをみわたしてもだれもいない。どうにか周回マーカーブイに近づくと、そこに、1個だけライフジャケットが結ばれていた。危険なときは、これを着用しろということであろうか。身近に、死の危険を感じた瞬間であった。

トライアスロンは過酷なスポーツである。あたりまえのことだが、特にスイムは自信があっても十分な注意が必要である。ウエットスーツを着用し、コースロープで守られ、ブイやサポーターが見守っていてもである。

ハワイのトライアスロンは、この原点にもどしてくれた。参加した以上、自分だけの力でレースをやり抜くという原則のみがそこにあった。

レース終了後、日本人選手の一部から、スイムの危険性に関し、クレームが出された。主催者側は、「参加者の殆んどがレースをエンジョイした。

クレームを出したのは日本人だけである。このレースは成功したと考える」

一人の死者と多数の負傷者を出しながらも、参加者の大半は完走し、パーティー会場はお互いをたたえあう言葉で満ちあふれていた。

ハワイは日本語が通じ、通訳付きのレース説明会があたりまえと考え、日本国内と同様のスイム

サポートを期待する日本人の甘さから生じたクレームであろう。

レース終了後、帰国機内で乗務員が完走パーティーを開いてくれた。レースで命をおとしかねた自分の甘さと、今までで最高の完走の充実感が交叉し、次々と空にしたシャンパンの味は、何ともほろにがい味であった。





開業は慎重に

千代反田 修

なんでも事は東大に始まるが、今回ブームの開業指向も東大から始まり、今や全国津々浦々開業ラッシュのご時世である。私は勤務医なのでかつてやはり開業を考えたことがある。しかし割に合わないのでやめた次第である。なぜかと云うと、実に割に合わないからである。勿論医療を行う土壌でなくなった日本で医者をする事自体割に合わないことかもしれないが、それでも医療に情熱を燃やすエネルギッシュな方の開業は大賛成である。

今回の開業ラッシュの初期には、医療コンサルタントなる者が、一日平均何人受診すれば、年収がどれだけで、年間どれだけ借金を返していけば、いつ頃には借金がかたずきますと云うものだった。保険点数の誘導政策もあるが初期に開業した方は、だいたい予定どおりに進んでいるようだ。

現在は中期にあたるのだろうか、これからは初期の方ようにはいかないと思われる。一つの仮定を試してみたい。あるエリアに一件の開業医Aがいて一日100人の外来患者を受け持っていたとする。そのエリアにもう一件開業医Bができたとする。開業医Aの外来患者数は50人と半減し、悩むことになる。開業医Bは50人も患者が来たとき大喜びである。しかし、さらにもう一件できたとすると患者数は33人となり開業医Aはとても悩むことになり、開業医Bも悩むことになる。予定どおりに借金を返せなくなる。

開業医の密集した都会のある地域では、食うか食われるかといって患者の奪い合いに躍起になっているようだ。そんな方の話を聞いてみると、あんなに立派な先生だったのにと思う反面、むしろ

患者も可哀相に思えてくる。つくられた医療不信が現実のものとなっていくのだろう。

おそらく平成15年頃は開業の晩期になると思われるが、既にある医療経営マニュアル本は役に立たず、予定どおりに借金を支払えない方のための医療コンサルタントが大はやりになっていると思われる。俄かに家庭医認定制度も見え隠れしてくる。

勿論これは平均的流れであって、違う道をたどる方もいらっしゃるわけだが、さほど差はないと思われる。では全員が辛い思いをしなないためにはどうしたらよいのであろうか。

宮崎県には幸い医科大学が一枚あるので、開業される方の集会を自主的に持つべきである。できれば公衆衛生学の先生を知恵袋とし、エリアを設定し、人口動態、有病率からどのエリアにどの科がどのくらい必要なのかを算定し、割り振りを行い、可能な限り希望順に穴を埋めていく方式が良いと思われる。これにより地域の医療も充実するし、医者が無駄な労力を費やすことも回避できる。同時に医科大学の入学者を適正人数に抑制していくべきだと思う。医療を自然淘汰の世界に持ち込めば、前述のように医者も患者も、また医療費から見ても健康な人も不幸に陥ることになり、決して幸せになる人はいなくなると思われる。勿論国家が、溢れるばかりの医者を養成して世界の医療過疎地をなくそうと考えているなら話は別だが。

参考文献：医療〔救命ボート〕に乗り遅れるな
アメリカの医療に学ぶ
著者：Howard H. Hiatt
訳：遠藤 明
日本医事新報社



開業してみて

松本 宏一

今年の11月で2年が過ぎます。開院したところは田野町の269号線沿いの、回りが大根畑で囲まれた、風通しの良いところです。この2年間は地域のお役に立てるように診療に勤しんで来ました。もちろん地域のお役に立てなければ、患者さんは来院してくれない訳ですから医院は廃業になってしまいます。今ではなんとか家族を養えるようになりました。私の小遣いは足りません。

平成5年の春、将棋界では50才で初めて名人位を取るという快挙を、米長邦夫がなし遂げました。升田、大山、中原、谷川、羽生と全員20才前半で名人位に就いています。そのなかで只一人臺が立ってから最高位に就いたのが米長名人であり、努力の人です。才気に溢れ過ぎていた為に、かなり遠回りをして名人になりました。平成5年の秋、当院開院とはほぼ同じ頃になりますが、宮崎医科大学の学園祭に大学の体育館で米長名人の講演があり、聞きに行きました。以来、私も一人の女性に愛されることを願い、「謙虚と笑顔」という言葉を座右の銘として診察室に張っています。勝利の女神は謙虚と笑いが好き（米長語録より）。

来年の目標はコンピューターの導入です。これにつきましては私は不得手でありまして、誰か造詣の深い知り合いに指導を仰ごうと思っております。どうも今使用している医療用コンピューターにしても、自分の無知のために高い代価を支払ってしまっていると思います。新しいコンピューターの使用目的の一つは将棋対局であります。少なくとも日本全国の人と対局が出来るというの

は魅力です。さらに希望するのはプロ棋士との指導対局ですが、現在はまだルートがないようで、残念です。リゾートが満喫できる宮崎に居ながら中央のプロ棋士と将棋が指せるとなると、考えてみるだけで口元が緩んでしまいます。

富士には月見草、中原には名人が良く似合う一私は中原先生の大ファンであります。夢は羽織袴で正装して、中原名人と対局することです。今度の正月にはその時の為に、こっそりと袴を作るつもりです。ゴルフの夢はここに書くとピストルで撃たれるといけませんので、2番目の夢を書きます。美々津に在住の三股先生に一度でいいから勝ってみたい、三股先生が二日酔いの時でいいですから。

宮崎にはゴルフ、夏の間、霧島の温泉と揃っているところに冬も泳げるシーガイアが出来ました、シンガポールへの直通便もあります、これはもう一年中リゾートです。と言うような事を書いていますと、20年前の大学入学当時の気分を思い出します。一生リゾートと思っていました。開業した今、大学入学当時と同じ様な心持ちです。海の物とも山の物とも分ならず、意気揚々とした不安と期待に浸っています。

仕事につきましては、経営は別として道楽としての病棟を持てればと思います。これが一番実現しそうもありませんが、地域住民のお役に立ち続けければ何とかなるかもしれません。

未熟者でございますので、同門の皆様には、どうぞ今後ともご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。



「熟練」(skill) ということ

中 村 誠 司

宮崎医大を卒業して医師になり今年で13年目になりますが、最近ようやく整形外科という科の輪郭が見えてきました。外科の医師には、敏速性 (speed)・熟練 (skill)・強い精神力 (spirit) のいわゆる三つのSが必要だといわれますが、今回そのなかの熟練 (skill) について考えてみたいと思います。

ヒトや動物の運動・動作を学問的に研究する分野に動作学 (kinesiology) があります。主に表面筋電図法を用いて研究するわけですが、この手法をもって運動・動作の熟練度を評価することが可能です。体育に、コマの上に板を乗せてバランスをとりながら板を左右に揺すり続けるバランシング・プレーというのがあります。この動作の際に、上肢の筋として三角筋を、下肢の筋として大腿筋膜張筋・大腿直筋・腓腹筋を選んで表面筋電図にて筋放電を調べます。練習1週間目では、上肢・下肢ともに強い筋放電を認めますが、1ヵ月もしますと上肢には筋放電を認めなくなり下肢の筋にも必要な筋にのみ筋放電を認めるようになります。やがて6ヵ月後には、下肢筋には必要最小量の筋放電しか認めないようになり、これが動作学からみた「熟練」(skill)ということになります。しかしながら、ここでとても大切な事実があるので。実は2ヵ月目から3ヵ月目のいわゆる習熟途上において、1ヵ月目の段階よりも無駄な筋放電

の多い放電過剰期 (agitation) の時期があるので。この時期の存在はとても示唆に富んでいるように思えます。

かつて、ある評論家が詩人・白秋に対して批評した際のエピソードのなかに、この agitation 存在の答えを見出せるようにも思えるのです。評論家は、白秋の詩について、「あなたの詩は、素人の詩とほんの僅かしか変わらないではないか。」と酷評します。それに対して、彼は毅然とした態度でこう答えるのです。「そうです。私の詩は、ほんの僅かの違いしかありません。私はその紙一重のために命を削っているのです。」と。まさにこの評論家は知識の人であり、いっぽう白秋は知恵の人であったのです。換言すれば、あの agitation の時期はまだ知識の段階であり、「熟練期」は知恵の段階と言えます。この二つの間はほんの僅かのようであり、その間には雲泥の差が存在するのです。

世の中には、物知りの人はたくさんいますが、とかく彼らの言動には agitation が強いようです。これからの医療に求められているのは、実は知識ではなくて知恵なのかもしれません。肉眼には、鳥の翔ぶ姿や魚の泳ぐ姿にしか見えないものの中に、空に鳥の道を、海に魚の道を見たりできる慧眼 (知恵の眼) を身につけるように努力したいものです。

横浜労災病院紹介と近況報告

田 中 正 一

同門会の諸先生には御無沙汰しております。前任地北九州市の門司労災病院から平成7年4月に横浜市の横浜労災病院（リハビリテーション診療科）に転勤となりました。次第に宮崎から遠くなっています。現在の病院紹介と近況報告を行いたいと思います。

横浜労災病院は、労働福祉事業団が全国で39番目の労災病院として平成3年6月に開設した総合病院で、港北区を中心とする横浜市北東部地域の中核病院となっています。そのため地域医療に貢献する365日、24時間体制の救急医療を大きな特色としています。病床は650で診療科は21あり、外来患者は1日2100名です。リハビリ部門は作業療法、理学療法、言語療法を含めて1日170名が利用され、リハドクターによる診察は1日30～40名程度行っています。リハビリのシステムとして訓練室での訓練はすべてリハビリドクターのリハビリ指示録（処方箋）がないとできないことになっていますので、整形外科の後療法を含むリハビリ、神経内科、脳神経外科、小児科（精神運動発達遅延、脳性麻痺、フロッピーインファントなど）、呼吸器内科などの依頼が多いようです。残念なが

ら、リハビリ病棟はありませんので中央診療科として機能しています。診療自体は多忙を極め、ほとんどデスクワークの状態です。2年後の病床数見直しで増床（病院自体は880床の予定で建設されており、10階のうち9階と10階は空いている）時にリハ病棟ができる？といわれていますが、現時点ではわかりません。当院の整形外科は田淵部長以下10名おられ、スポーツ整形が盛んなようです。また、整形外科はサッカーの読売ヴェルディのチームドクターになっている関係もあり、時々関連する選手がリハ訓練や評価のためにリハ訓練室を訪れます。

横浜労災病院は新幹線の「新横浜駅」から真っ直ぐに徒歩10～15分のところにあり、また「横浜駅」にはJR、または地下鉄で15分で行け、地理的条件には恵まれています。やたらと人が多いのにはうんざりします。

リハビリテーション診療科は障害医学を対象としますが、宮崎医科大学整形外科教室で学んだことは今でも役に立っております。宮崎から離れたところに勤務となっていますが、教室の御繁栄をお祈りいたします。

『阪神大震災と免停』

匿名希望 (K.M)

3月某日、どんよりとした雲の下私は神戸に居た。数多くの瓦礫が積み重なるここ神戸は、私が学生時代に遊びに来た神戸とは全く異なる様相を呈していた。今から約2ヶ月前、忘れもしない認定医試験の2日前、この地は戦後最大級と言われる地震に見舞われた。多くの死傷者が出、多くの方々が避難生活を送っていた。

私は、『宮崎県災害救護班』の一員として、我が医局を代表して約1週間神戸に滞在した。そしてこの間、私は着のみ着のまま医療活動に従事した。その厳しさは想像を絶し、一言では言い尽くせないほどであったが、あえて一言で言うのなら『帰りに立ち寄った博多のホテルでなんにもできないほど』であった。

そして期間は過ぎていき、私は7月1日より市民の森病院勤務となった。同僚のK君は過日スピード違反を犯し、着任早々免停の講習のため休みをとった。そんなK君を見て私は『前科者』、『罪人』と彼を糾弾していた。そして7月8日、この日は『宮崎県整形外科懇話会』が宮医大で行われ、私はそれに出席し、受け付けで同門会のVIPであるK先生のものまねをした後、『今宵のやすらぎ』を求めて宮崎自動車道を西へと向かっていった。目的地には兄の友人が居ていつでも

『今宵のやすらぎ』を用意してくれる。

西日に向かって快調に飛ばしていた私は都城インターを過ぎたところで前方に何か赤いものを見た。『ねずみ捕り』であった。あわててブレーキを踏んだが間に合わなかった。3万5千円もしたレーダーがむなしく光っていた……………。

後日、私の手元に一通の封書が届いた。減点点数は計15点と『取り消し』にまで達していた。私は驚いた。捕まったときは『免停』くらいだろうとたかをくくっていたが……。私のスケジュールには『X'mas ufufu ……』、『Two Hip』、など車が絶対に必要な予定がぎっしりであった。何とかならないものかと方々手を尽くしたがダメだった。私は観念して免許センターへと向かった。事情聴取で『ポケットベルで呼ばれた』、『急患だった』など、どんな言い訳をしてもダメだった。最後に神戸に言ったことを話した。途端に係員は目を輝やかせた。私は神戸の有様をつぶらに説明した。同じ日の午後、私は再度免許センターへと向かった。神戸での働きが認められたのか、顔が良かったのか私は『免許取り消し』のところを『長期免停』ということになった。『これでX'masには間に合う』と一人ほくそえんだ。

熊本より近況報告

寺 本 憲市郎

私が熊本へ来て早、3年半が経とうとしている。上天草総合病院を1年、熊本市民病院を半年、そして現在の熊本機能病院でもう2年になる。

まず熊本へ来て病院の多さに驚かされた。熊本市民病院、済生会熊本病院、NTT九州病院、熊本日赤病院、国立熊本病院、地域医療センター etc. etc. 総合病院だけでも結構な数になる。そのなかで熊本機能病院は、主に四肢の機能再建を目的とした中賢クラスの病院として地域医療の一端を担っている。ここで簡単に紹介したいと思う。病床数は400床、整形外科、形成外科、内科、リハビリテーション科、歯科があり、Dr数は30名で、中国から3名、ネパールから1名の留学生を受け入れている。外来は月曜から土曜の週6日で、24時間体制の四肢外傷センターを設置している。その他に、宮崎医大整形外科教室前教授でもある木村千仞先生のリウマチセンター、再接着センター、口唇口蓋裂センター、老険施設等を有する。

1週間の定期手術は、平均70例で上肢、下肢、形成外科の手術が行われ、農繁期は四肢切断などの救急を要する外傷が頻繁にやってくるため、手術室のスタッフは大変である。私は上肢班に所属しており、マイクロサージャリーを用いた再接着術、機能再建をメインに仕事をさせて頂いている。

このような状態であるから一日一日に追われる生活で、2年間なんてあっという間に過ぎてしまった。これから先もしばらくはこの状態が続くのだろう。でも私は忙しい方が性にあっていようだ。2時間程度の睡眠時間の方が気合いが入る。はたして5年後までこの生活が持続できるだろうか。

最後に田島教授はじめ諸先生方の温かい御配慮と御指導に感謝しつつ、また教室および同門会員の皆様の御発展を遠く熊本の地よりお祈りいたします。





食欲の秋に

松岡 知己

南郷町の百瀬病院に勤務して暑かった夏も終わり朝夕冷え込む様になり秋を肌で感じています。

食欲の秋にふさわしくおいしそうな魚介類が店頭にならぶようになりました。

海の幸が病院の検食にも出る回数が多くなり、秋を胃袋で感じています。

鍋のシーズンになってきましたので、今回はキムチ鍋の作り方を書いてみます。

〈材料 4人分〉

豚ばら肉 300g キムチ 300g
絹ごし豆腐 1丁 長ネギ 1本
人参 小1本 生しいたけ 4枚
もやし 半袋

調味料

キムチの素 大さじ1杯
おろしにんにく 小さじ1杯
醤油 少々 ごま油 少々

だし

900ccの水に頭とわたを取ったいりこ20匹を30分浸けた後、強火にて10分煮立てた後いりを濾します。

下ごしらえ

キムチ、肉は1口サイズに切ります。

豆腐は16等分に切ります。

モヤシは軽く湯どうしします。

人参は薄く輪切りに、ネギは1cmの斜め切りにしておきます。

作り方

中華鍋を熱した後ごま油を鍋にまんべんなくなじませ、にんにくと醤油を入れ炒めます。肉とキムチを入れ好みの辛さにキムチの素を加えてよく炒めます。鉄鍋にだしを引き、残りの材料を入れておきます。そこに炒めた材料を入れて強火でひと煮立ちさせます。弱火にした後あくを取りながら醤油で味を整えて出来上がりです。

お好みで、もちやうどんを入れてください。

秋の食欲をさらにかき立てます、一度試しに作ってみませんか。

あまり辛くすると翌朝がつかなくなるので、注意してください。



宮崎県身体障害者相談センター

黒木 俊 政

はじめに

平成7年4月から宮崎医科大学整形外科学教室から宮崎県身体障害者相談センターに出向しております。身体障害者福祉という新たな分野で微力ながら社会貢献をしたいと思っております。当センターは本年4月に清武町に移転整備された新しい施設であり、その沿革、施設概要、組織及び職員数、業務内容につき紹介させていただきます。

1. 沿革

当センターは、当初身体障害者更生指導所として、昭和26年4月宮崎市恒久に設置された。その後、義肢製作所の移転統合、身体障害者授産施設の併置を行うとともに、同所内に身体障害者更生相談所を設置し、業務の推進を図っていたが、昭和44年4月、施設の老朽化、狭隘化等に伴い、宮崎市大島町に新築移転して身体障害者福祉センターとして発足した。

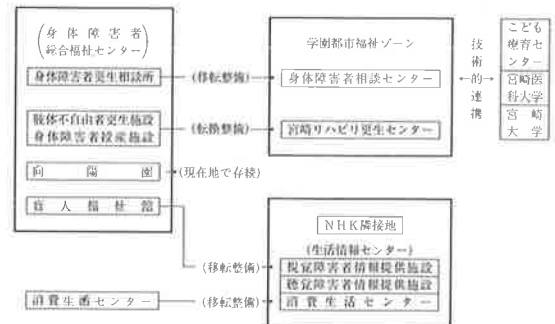
移転後、盲人福祉館（宮崎県盲人福祉協会に運営委託）及び向陽園（宮崎県社会福祉事業団に運営委託）が順次設置され、昭和47年4月、名称を身体障害者総合福祉センターと変更し、県内の身体障害者福祉行政の推進の拠点として運営してきた。

しかしながら、近年施設の老朽化が進み、また障害者の高齢化、重度化によるニーズの変化や身体障害者更生相談所の機能強化の要請等の新たな課題に的確に対応するため、施設内容や機能の再編整備が進められ、平成7年4月、「ホット21ふくしプラン」に基づき、身体障害者更生相談所本

来の相談判定機能に加えてリハビリテーション推進機能や情報管理機能を併せもった身体障害者相談センターとして、宮崎郡清武町に移転整備された。

併せて、重度身体障害者更生援護施設として宮崎リハビリ更生センター（社会福祉法人立）が隣接地に設置され、相互に連携していくことになった。

2. ホット21ふくしプラン（身体障害者総合福祉センター関係分）の概要図



3. 施設の概要

(1) 所在地 宮崎郡清武町大字木原5719-2
(電話 85-3388)

(2) 敷地及び建物

敷地 19,657.50㎡

建物 2,184.55㎡

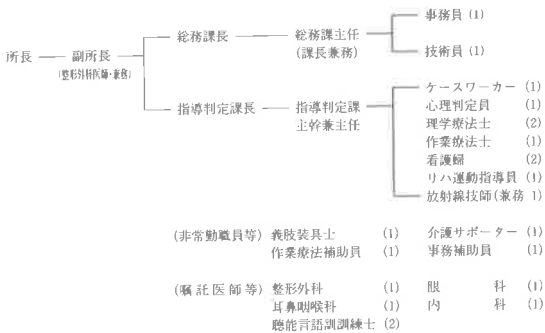
(建物内訳) 事務所 2,076.55㎡

車庫 104.00㎡

倉庫 4.00㎡

4. 組織及び職員数

(1) 組織



(2) 職員数 26名

(職員16名 (内兼務2名)、非常勤職員等4名、嘱託医師等6名)

5. 業務の概要

目的 身体障害者の自立や社会参加、生活の質の向上をめざして、専門的な知識及び技術を必要とする身体障害者に関する相談や、医学的、心理学的、職能的判定及び補装具の処方並びに適合判定を行います。また、地域リハビリテーションの推進拠点として、リハビリテーション機能や、関係機関の連絡調整及び情報提供など、各種の機能を整備して、県内全域の在宅福祉、地域福祉の推進に必要な技術的支援を行います。このため、センターのほか、県内各地を巡回してこれらの業務を行います。

主な業務

(1) 専門的相談指導及び判定

①相談

- 生活・施設入所等の相談
- 住宅改造の相談
- リハビリテーション訓練等に関する相談
- その他の医学、心理、社会、職業の専門的な相談指導

②判定

- 更生医療についての医学的判定
- 義手・義足・車椅子や補聴器などの補装具交付の要否及び適合の判定
- 身体障害者更生援護施設入所の適否及び適切な施設種別等についての医学的、心理学的及び職能的判定
- その他必要な身体障害者の更生援護についての医学的、心理学的及び職能的判定

③巡回相談

- 遠隔地の身体障害者（児）を対象に、関係福祉事務所及び町村の協力を得て各地で医学的判定等を実施

(2) 連絡調整

- ①身体障害者更生援護施設入所に関する市町村との連絡及び調整
- ②市町村・施設等への専門的な技術援助指導

(3) 在宅障害者介護者支援相談（電話相談）

- ①在宅の身体障害者を介護されておられる方々の相談

(4) 福祉用具相談開発

- ①補装具等福祉機器の展示・相談及び装着使用訓練
- ②福祉用具の開発、改良

(5) 情報提供

- ①身体障害者福祉にかかわる各種の情報の収集と発信
- ②情報コーナーの設置
- ③情報誌を発行

(6) 地域リハビリテーションの推進

- ①身体障害者社会復帰推進協議会の運営
- ②市町村、施設職員等のリハビリテーション関係職員の研修の実施
- ③リハビリテーションに関する調査研究の実施

(7) リハビリテーション指導

- ①医療リハを終了した在宅等の身体障害者と、その家族等を対象とする生活環境に即したり

- ハ訓練、ADL訓練、屋外行動訓練の指導
- ②身体障害者のより質の高い生活実現のための技術支援や、総合相談、カウンセリング等の実施

★★★★

リハビリテーション指導の内容等

★★★★

目的

身体障害者が、家庭や社会生活に適応し、生きがいと満足をもって生活できるよう、地域リハビリテーションを進める市町村及び医療機関等と連携して、障害全般のリハビリテーションに関する専門的相談や、指導助言並びに訓練指導を行います。

対象

- ① 医療リハを終了して、在宅あるいは施設で生活している身体障害者、及び退院間近の入院患者

- ② 障害者の家族及び市町村、施設、医療機関等のリハビリテーション関係職員

内容

- ① 医療リハを終了した障害者が、日常生活の場で続ける維持的リハビリテーションを支援するための在宅リハ訓練やADL訓練等の指導
保健指導、評価判定、維持的リハ（理学、作業、リハ体操、言語）の指導、ADL訓練、屋外行動訓練（街路歩行、信号横断、車椅子操作等）
- ② 日常生活や職場をより快適にするための、福祉用具の紹介や改良開発、住宅改造等環境改善に役立つ技術支援（テクノエイド）
- ③ 障害者の自立や社会参加、より質の高い生活の実現に役立、総合相談及びカウンセリング並びに障害福祉に関する各種情報
- ④ 地域リハビリテーションサービスに関係する市町村職員、医療関係者、施設職員等への指導助言及び研修並びにリハ技術の共同研究等のためのセンターの施設及び設備機器の開放



諸塚村国民健康保険病院

福元 洋一

諸塚村は、日向市沿線から北西に約48km、国道327号線を耳川沿いにさかのぼったところにある人口約3,000人の村で林業と椎茸栽培がさかんである。この村は四方を山に囲まれ、多くの耳川の支流が流れているためヤマメ、アユ、コイ、ウナギなどの魚釣りが楽しめ、秋は六峰街道での紅葉を満喫できる。

この村の中心に位置する病院は、昭和30年7月に国民健康保険病院として開設され、診療科は内科と整形外科を中心に、常勤医師数内科1名、整形外科1名の計2名で診療にあたっている。病院全体の病床は28床で、1日外来患者数は、内科・整形外科あわせて70~80名程度である。整形外科は外来と手術にあわせて一般検診も行なっている。外来は、主に老人が中心であるが林業がさかんで

あるのでシビアな外傷も時折みられます。手術は月3~4例と少ないが、月2回研修日をいただき延岡の県病院等に行かしてもらっています。

さて、私事ではありますが、7月1日付で前任の山口先生に代わってこの病院にお世話になっております。ここでは医者が2人しかいないので2日1度当直というハードスケジュールですが、その合間をぬって青年団と役場の野球に参加させてもらっています。諸塚村には宮崎で唯一の人工芝野球場があり、毎週練習や試合をおこなっているので、自分も来年の野球大会にむけて充実した日々を送っております。

最後になりますがこれからも諸塚村国民健康病院をよろしくお願い致します。



県立こども療育センター紹介

渡 邊 信 二

私の勤める県立こども療育センターは、清武町の医大の南の高台に位置している宮崎学園都市福祉ゾーンの一角にある。広大な敷地の中に県立こども療育センター、清武養護学校、ひまわり学園、宮崎南養護学校の4施設があり、県内の肢体不自由児、精神薄弱児の療育の中心的な役割を果たしている。特にこども療育センターは肢体不自由児施設であると共に医療法に基づく小児整形外科病院として機能している。扱う疾患は多岐にわたるが特に脳性麻痺がその大部分を占めており、将来、社会の一員として自立できるように整形外科的治療、機能回復訓練、生活指導を行い、障害の除去、軽減に努めている。

療育の内容としては隣接する清武養護学校に通学しながら治療訓練を行う入所部門、母子ともに短期入所させることによって家庭における一貫した適切な訓練方法を習得する母子入所部門、通園にて訓練・保育を行う通所部門、毎週火・金の2日が診察日の外来部門、児童相談所や保健所と連携し障害児のスクリーニング、遠距離その他の理由でセンター通所が困難な児の診察や訓練を目的とし、県内各地を巡回する巡回療育相談がある。

さて、当センターに勤務する医師は山口和正所長をはじめとし、黒木俊政先生、渡邊、野辺の4名の整形外科医で（黒木俊政先生は身体障害者相談センター兼務であるため週2回出勤）、主に脳

性麻痺の痙性、拘縮に対する手術を行っている。たとえば、下肢の緊張が強く寝返りができない患児に対しては下肢の緊張緩和のために股関節周囲筋の延長、切離、アキレス腱延長等を行い、なるべく筋力を損なわないように注意しながら緊張を緩和させ、寝たきりから腹這い、腹這いから四這い、そして座位獲得へとすすめ、日常生活上の自由度を改善させることを目指している。症例としては決して多い方ではないが、各症例毎に検討を行い、最適の手術方法をと考えている。

また、当センターには歩行分析機器、AV機器が充実しており、それを管理するコンピュータもマック3台、NEC4台を揃えて、障害をバイオメカニズム的に解析することも可能である。

障害児の治療はチームアプローチが必要であると言われているが、当センターでは医師、看護婦、理学療法士、作業療法士、言語訓練士、保母およびその他のスタッフが各患児に応じた治療・訓練プランに沿って行動し、一貫性のある治療を目指している。また、当センターは県内唯一の肢体不自由児総合施設であり、宮崎県下を視野に入れた活動が求められ、障害者が地域で安心して生活できるよう地域の施設、スタッフと密接に連携し、地域療育、地域支援を強化していく必要があると思う。



放課後自由活動 こども療育センター

設 置：宮崎県
運 営：宮崎県
定 員：入所60名 通園20名 母子入園5名
創 立：昭和34年9月1日

こども療育センターは、脳性小児マヒ・二分脊椎・股関節脱臼などで比較的長期にわたって治療を必要とするこどもに対して、整形外科の治療を行うほか、専門の各科診療及び機能回復訓練や生活指導を行って、障害を除去・軽減することを目的としています。



設 置

専門の医師とスタッフが診察・手術・器具処方・ギプス・X線撮影・薬剤投与・歩行分析など、こどもたちの療育に必要な総合的治療を行います。



機能訓練

理学療法士、作業療法士、言語療法士などが、それぞれの専門知識に基づいて、こどもたちの能力と可能性に応じた訓練を行います。

- 診療科目
- 整形外科
 - 理学診療科
 - 小児科
 - 泌尿器科
 - 眼科
 - 歯科口腔外科



看護課、栄養指導課、保田が一体となって基本的看護はもちろん、日常生活全般にわたってこどもたちの人格を尊重した包括的な援助・指導を行っています。



保 育

まだ就学前に達しない入園児や通園しているこどもたちには、保育に似た保育を行います。



生活指導

基本的な生活訓練としての周辺処理指導をはじめ、職業実習、社会学習、資格訓練などを実施して社会での自立性を養います。



愛情と信頼関係を基礎としながら、それぞれの能力に応じた訓練指導を行い、習得能力の増進と器用で活発に活動する児童の育成に努めています。



交 流

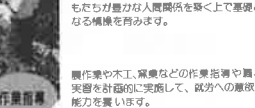
こどもたちの障害の程度・年齢・嗜好などをよく考えた献立を用意し、食器や椅子・テーブルにも配慮して、できる限り自力で楽しく食事できるよう工夫をこらしています。



余暇指導

レクリエーション活動や遊びを通じて、こどもたちが豊かな人間関係を築く上で基礎となる情操を育みます。

(福祉ゾーンともども広場)
障害の再発・増悪に備えおくこどもたちの交流を促進し、ノーマライゼーションの理想の実現を図るため、平成元年度から「福祉ゾーンともども広場」事業を実施しています。



作業指導

製作業や木工、算盤などの作業指導や異種実習を計画的に実施して、就労への基礎と能力を養います。

肢体不自由児養護学校 清武養護学校

〒889-16 清武町大字木原4257-9 ☎0985-85-6641
設 置：宮崎県
運 営：宮崎県
学級数：小学部14学級 中学部7学級(平成元年度)
創 立：昭和32年4月1日



授 業

こども療育センターとひまわり学園に所属する養護学校では、こどもたちに對してそれぞれの能力、障害の程度に応じた適切な教育を行っています。



学習委員会

こども療育センターとひまわり学園に所属する養護学校では、こどもたちに對してそれぞれの能力、障害の程度に応じた適切な教育を行っています。

精神薄弱児養護学校 宮崎南養護学校

〒889-16 清武町大字木原4257-9 ☎0985-85-9220
設 置：宮崎県
運 営：宮崎県
学級数：小学部9学級 中学部6学級(平成元年度)
創 立：昭和33年4月1日

精神薄弱児施設 ひまわり学園

〒889-16 清武町大字木原4257-7 ☎0985-85-9220

設 置：宮崎県
運 営：宮崎県社会福祉事業団
定 員：入所60名
創 立：昭和26年10月1日

ひまわり学園は、原則として18歳未満の知能の発達が遅れているこどもを入所させて保護するとともに、将来、独立自活するのに必要な知識技能を与えることを目的としています。

県立延岡病院研修状況

山本 惠太郎

本年6月21日、次期赴任の挨拶と歓送迎会出席のため、延岡を訪れました。県病院だからすぐにわかるだろうと、場所を確認せず来たため、行く途中で迷い迷い、人に聞きながらようやくたどり着きました。そこでの建物の旧さと雑然とした雰囲気にビックリし、そして案内された年代物の官舎（昨年同門会誌をよんでいたためさほど驚きはなかったが……）もなかなかすごかったです。

7月1日(土)初日、システムも何もわからないのに、熊大懇話会で他の先生方が居られず、First callといわれ、その日引越しながらいつ鳴るかビクビクしていました。

それからはや3ヶ月、ようやくこちらにも慣れてきました。

県立延岡病院は県北2市8町5村の広域の高度・特殊医療、二次救急医療、僻地中核病院としての基幹病院です。昭和32年に整形外科が開設され、スタッフは現在、永田高見院長、谷脇功一部長、木屋博昭医長、弓削孝雄医長ら計7人です。

当科における平成6年度の実績は、新患者3,344人、再診34,956人で、1日平均170人でした。また、入院62床（利用率110%前後）で、年間手術（定期は月・水・金）症例は570例を数えました。その内訳は骨折（抜釘含む）が約半数で、人工骨頭置換術、THR、TKR、脊椎、腫瘍、腱・靭帯、末梢神経、植皮・皮膚形成、関節鏡、骨髓炎、切断・断端形成など多岐にわたっています。

熊大からは2年目から3年目までの2年間延岡に赴任しています。自分は、面倒見がよいDr.塩

川と同期のDr.田口とともに機動力部隊として、主に病棟（10数人の主治医）中心に、手術の助手や急患の処置、また、受け持ち患者の週一回の外来followを担当しています。そして、時間外はDr.田口と交互にFirst callを受け持ち、三人を中心に対処しています。

築30年以上といわれている西小路官舎は別名研修医官舎と呼ばれ、他科研修医と和気あいに生活しています。それと、幸いなことにDr.田口も今年結婚したばかりで、その上、奥さん同士が同い年なので公私ともに助け合っています。

延岡には、松岡先生、坂本(武)先生、川添先生に継ぎ自分で4人目です。諸先輩方のご活躍の話も多数伺っています。来年の6月まで短い期間ですが、少しでも諸先輩方に追いつけるよう頑張っていきます。

(写真)

前方が現病院、後方が新築中の病院。12月に第一期移転（病棟と手術室）。完成は平成10年度予定。





医局長雑感(この一年間を振り返って)

帖 佐 悦 男

いつものように筆無精の私にも容赦なくこの頃は桑原先生ではなく、同門会運営の良き理解者である秘書の辰巳さんから締め切りをあらかじめ計算し、前もって今回は2編原稿を書くようにと達しがあり、やっと期限のみ交渉し書いている次第です。

今年一年を振り返るにはまだ早い気もしますが、10月までについて報告します。まずは、ちまたでは医師過剰時代の到来といわれていますが、幸いなことに、当教室においては医師派遣の要請が多く、またいつも問題になりますマンパワーの不足に関しても、平成7年3月に東京医科大学から吉松成博先生、4月に鹿児島生協病院(本学出身)から黒沢治先生を5月に宮医大から安藤徹先生、井上篤先生、内田秀穂先生、谷畠満先生、濱中秀昭先生、福岡大学から田爪陽一朗先生、それから10月には、宮崎医科大学整形外科学教室開講以来、初めての女性医師深野木由姫先生を川崎医科大学よりお迎えすることができました。新入医局員歓迎会を、6月10日(土)に開催し、同門会員をはじめ、秘書、看護婦の方々にも多数出席していただき盛會に執り行うことができました。詳しくは、同門会便り5号をご覧ください。

そして、待ちに待った西日本整形外科野球大会(西日本整形外科スポーツ医学研究会)が、8月5、6日に福岡で開催され、8月5日は、田島教授が成長期における野球障害に関し特別講演され、8月6日の野球実践で、見事2軍は、優勝。田島教授の優勝だるまに片目をつけることができました。来年は、宮崎医科大学整形外科学教室主管で当地にて開催致しますのでアベック優勝を願っております。

その他の教室関連の行事をあげますと、1月7日;教室会議、1月19,20日;日整会認定医試験(阪神大震災のため2月23,24日へ延期)、その他、スポ研、リハ研、懇話会、コスモス会、MX-1研究会などがあり、皆様の協力のもと無事に終了することができました。

今後は、新入生歓迎医局旅行や忘年会などが予定されていますがそのことについてはまた報告があると思います。

最後になりましたが、医局長として同門の先生、教室員の方々に医局運営などの点でご迷惑をおかけいたしましたことを深くお詫び致します。同門の先生方の、ますますのご繁栄とご健勝をお祈りし医局長雑感とさせていただきます。



BAK ヨーロッパツアーに参加して

黒木浩史

5月4日～5月14日の11日間、田島教授の御厚意により、Smith & Nephew 株式会社の主催する BAK ヨーロッパツアーに参加させて頂き、ヨーロッパを訪問いたしました。私にとって初めての海外であり、期待以上に不安の強い出張となりました。

まずオランダのライデン大学で行われていた European spine meeting に参加いたしました。BAK（後方椎体間固定用の instrument）をはじめ各種 spinal instrument についての手術法、臨床成績等に関する講演を聞いたあと、実際に死体を用いワークショップを行いました。ライデン大学は大変古い大学で、特に解剖学教室は約600年の歴史を誇っており、その解剖学博物館には正常から奇形にわたり様々な人体標本が所狭しと並べられていました。まさに解剖学の原点を感じさせる施設でありました。

次にドイツに移動し、ホンブルグ大学の experimental surgery での pig labo. に参加いたしました。そこでは、全身麻酔をかけたブタに腹腔鏡視下に

instrument を装着する実習を行いました。最近脊椎外科領域でも、胸腔鏡を用いた手術手技の報告が散見されるようになってきており、今後益々進歩の予想される分野であると思いました。

最後に私だけ別に時間を頂き、帖佐先生の留学先であるスイスのベルンへ参りました。ベルン大学整形外科学教室の Ganz 教授に許可を頂き、カンファレンスや手術を見学いたしました。日本とは違った大変合理的なシステムで、毎日手術が行われており、初めて見る手術も多く大変勉強になりました。

今回初めて海外へ行った訳ですが、今まで日本という非常に小さな領域のことしか知らなかった私にとって、とてもいい刺激になりました。今からは、どんどん外国を相手に我々をアピールすることが大切だと痛感致しました。

最後になりましたが、私の渡航に際し御協力を頂きました田島教授を初め教室員の先生方に深くお礼申し上げます。

ヨーロッパ整形、災害外科学会(スイス留学)に参加して

帖 佐 悦 男

まず始めに、ヨーロッパ整形災害外科学会への参加と、留学させていただきました田島教授をはじめ同門の先生方に御礼申し上げます。

私は、平成5年9月より Switzerland の Berne 大学に留学し、その際のテーマの一つでありました Periacetabular osteotomy に関する X 線学的検討について、EUROPEAN FEDERATION of NATIONAL ASSOCIATIONS of ORTHOPAEDICS and TRAUMATOLOGY (E F O R T) に応募しましたところ、幸か不幸か採用されドイツのミュンヘンへ行くことになりました。

今回は、外国での学会発表までの道のりは、初めてのことでいろいろありましたので私の経験が留学される先生に少しでも役にたてればと思います。

1) 抄録の応募について、日本ではまず無いと思いますが、GANZ 教授へ学会事務局より抄録の締め切りが迫っているとの FAX がはりました。この FAX が私のつたない英語を発表するきっかけになるとは思ってもいませんでした。スイスの学会か雑誌への投稿とのつもりで Periacetabular osteotomy に関する X 線学的検討に関し準備はしていましたが、EFORT に応募するとは思っていませんでしたので、突然抄録を書くことになりました。

教訓 1. 日本でもみなさん突然応募しないといけない？ことには慣れていると思いますが、留学した際テーマを頂いた場合、いつ何が起こってもいように準備をしておく。

幸い、Klaue 先生や秘書の Borgts さんが手伝ってくれましたので無事応募することはできました。

教訓 2. 先生は当然、秘書さんとも充分仲良くなっておくこと！

実際、文書は自分のコンピューターで応募用紙に印刷しましたが、その後の手続きは全て Borgts さんがしてくれました。特に提出する頃はドイツへの研修になっていましたので、不在のまま全てお世話になりました。

2) データの整理について、レントゲン写真はどこでも一緒だと思いますので計測する事はできませんが、そのデータをまとめるためにコンピューターが必要になります。

教訓 3. コンピューターに充分慣れておくこと。なぜなら、当然留学先のコンピューターのソフトは日本語ではない。スイスでは、英語、ドイツ語、フランス語が混ざり合っています。語学を覚えたくない場合？は、世界共通のソフトを日頃から使用すると雰囲気である程度使えるかも。

3) スライド作成について、日本と同様にコンピューターでしますので、スライド作成ソフトをマスターしておくこと。困ったことは、スライドの縦横を変更するよう、GANZ 教授に指示されコンピューター上では行えましたが、最後のフィルムに取り込む際向こうの専属のかた（整形外科専属で写真を撮影したりスライドを取り込んだりする人；3名）は、できないと信じていましたので、ふつうの横のスライドがはまり込むという奇妙な

スライドになりました。

教訓4. 外国では、特に自分の仕事（秘書、写真撮影など）に誇りをもっており領域をおかすこと（その個人専用のもの、例えばコンピューターなどは使用できない）はできない。

さて、学会に関しては、1995年7月4日から7日までGermanyのMunich (Muenchen)のTrade and FairCenterで、Prof. W. Puhl会長のもと4日間盛大に行われました。学会内容に関しましては、特別講演としてOrthopaedic in adultsの分野では、Prof. MorscherのTHA for OA in congenital hip dysplasiaやProf. JakobのPosterir, posterolateral and posteromedial instability of the kneeなど9題、Traumatology in adultsではFractures of the acetabulumやBrachial plexus injuriesなど4題、

Pediatric Orthopaedicsでは、Prof. DuboussetのScoliosis in infants and young childrenやTreatment of malignant tumors in children and adolescentsなど5題、Miscellaneousでは、Microsurgery in OrthopaedicsやMRIなどが採り上げられその他招待講演など盛りだくさんでした。また私の発表も無事終了することができました。

Muenchenといえばビールで有名なので、その日の夜は、有名なビアガーデンにつれて行って頂きました。ビアガーデンは、イギリス公園の中であり、池の周囲に自然をそのまま残し屋内、屋外をうまく調和させ設けてありました。奨めていただいたビールや料理は雰囲気も最高であり美味しく頂くことができました。貴重な機会を与えていただきありがとうございました。



初優勝

— Where there's a will, there's a **win** !! —

樋口潤一

平成7年8月に福岡大学の主管で行われた、西日本整形外科親善野球大会において我が宮崎医科大学整形外科2軍チームは、1・2軍を通じて宮医大整形初の、田島教授念願の優勝を成し遂げました。この快挙を、当日の熱戦の模様を交えて報告したいと思います。

〈平成7年8月5日、前夜祭〉

相変わらずくじ運に恵まれた2軍は朝1番からの試合を引き当て、他チームより多く試合ができるという幸運に、選手一同気を引き締めていた。しかし、今年は第1試合が9時開始であったため、ミーティングの後、選手たちは夜の町へと消えていった。

〈平成7年8月6日、試合当日〉

快晴の天気の下、二日酔いの選手もなく、第1試合を迎えた。対戦相手は産業医科大学であった。初戦の緊張感も感じさせず、相手投手を打ち込み8点をとって快勝した。第2試合は、福岡大学との対戦であったが、初戦とはメンバーをがらりと入れ替え若手中心のメンバー（2軍の2軍という声もあったが）であったが、母校を相手に張り切るT先生のヒットをきっかけに大量13点をとる猛攻で、投げても松岡、樋口のリレーでエース山口、黒木龍両投手を温存しての勝利であった。準決勝は、初の決勝進出をかけて熊本大学と対戦した。明らかに我がチームは若く経験不足で試合巧者の熊大にやられるのではと心配していたが、2回戦でのエース温存が功を奏し、また好調な打線が爆発し2回に13点を取り、結局20点を取って

勝ったものの、攻め疲れが心配される試合であった。初の決勝進出を果たし、意気あがる2軍であったが1軍が初戦で惜敗したという情報が入り、是非優勝をとということでさらに気合いが入っていた。決勝戦は直前にグラウンドが変更になり、準決勝を終えすぐに移動し試合に臨むことを余儀なくされ、しかも移動なしで待っていた対戦相手の長崎大学は今日3試合目、我々は4試合目という不利な条件での試合となった。しかし、昨年の鳥取での大会では、初戦で対戦しコールド勝ちしていた相手だけに選手の気持ちには組し易しという気持ちはあったようである。試合の方は、投手陣の連投の疲れと、準決勝の疲れから守備のミスが続発しあつと言う間に7点差をつけられてしまった。ダメかなというベンチの中、田島先生から負けてはならないという雰囲気が漂っていた。3回をすぎ準決勝の疲れが回復してきた頃から打線がつながりだし、試合は打撃戦の様相を呈し、徐々に宮医大ペースとなっていった。逆転し1点差で迎えた残り時間も少なくなった長崎大学の攻撃で、味方エラーで再逆転され誰もが敗戦を覚悟したとき、審判が攻守交代を告げ、最後の攻撃のチャンスがめぐってきた。この攻撃で大量6点をもぎ取った宮医大は、その裏の攻撃を黒木龍二投手の力投とバックの堅守で守りきり、初優勝を成し遂げた。

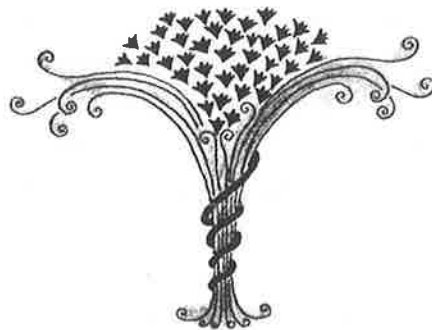
今回の2軍は非常にプロフェッショナルなチームであったように思われた。これは宮医大整形外科の医局員にとって野球も仕事の内ということをして

っているのでは決してないので誤解の無いように。つまり、数名の野球経験者を除いて入局後に野球を始めたようなほとんど素人の集団でありながら、個人の能力に応じた最高のパフォーマンスで各々が与えられた役割を果たし、結果としてチームの勝利につながったという点において、プロフェッショナルなチームであったということである。ややもすると個を殺しても全員に平等な働きを求め、チームプレイを前面に押し出し勝利をめざそうとするアマチュア的なチームでは決して無かった今回の2軍であった。さて、来年はいよいよ地元宮崎での開催である。2軍はV2へ向けて投手陣の充実と、守備の強化

が課題となるが、たまにはバンザイやトンネルで笑いもとれて、かつ勝てる2軍であってほしいと思う。

今回最も印象に残った一言は、決勝戦の試合前のミーティングでの田島先生の「ここまできたら、気合いだよ!!」という言葉である。フォームや作戦等といった事も大切だが、最後にものを言うのは気持ちだ!、手足を動かしているのは自分の意志だ!という含蓄のある言葉で、ここにスポーツ医学の真髄をみた様な気がした。

追伸、留守を預かっていただいた先生方にこの場を借りて御礼申し上げます。





平成7年度医局旅行を終えて

作 良 彦

平成7年度の医局旅行は、11月2日～3日の日程で北郷温泉に行つて来ました。例年と同様に計画の段階から様々な意見が持ち上がりましたが、結局のところ昨年と同じ場所となりました。(ごめんなさい……) 今年もフレッシュ6人組(安藤・井上・内田・田爪・濱中・谷島先生)と黒沢先生、そして医局初ドクトレス・ミス深野木先生の初参加と話題の豊富な年でした。

11月2日(木)午後5時、仕事を終え、ホテル北郷フェニックス・リゾートに向けてバスに乗り込み、研究棟前を出発となりました。バスの中は、昨日まで急ピッチで仕上げられていた恒例の夜の整形外科混和会やゴルフの話題で賑わっていました。

無事、ホテル到着。それぞれ、夜の星空、眼下に見降ろす街明かりの見える絶景の露天風呂でひと風呂浴びた後、宴会は、田島教授が急用のため、桑原助教授の挨拶で始まりました。ご馳走に舌鼓を打ち、アルコールでほろ酔い気分になった宴もたけなわ、いよいよ、夜の整形外科混和会の始まりです。

柏木座長の挨拶の後、第1席・靴下紫トール先生による『性毛外科伸入医局員』に始まり、第2席・堪忍してあかん、あかんで、もううち壊れる由姫先生による『2階東病棟極秘アンケート結果』が披露されました。喜んでいた先生、ショックを受けていた先生、真摯な結果に改めて再認識して

しました。(わたくし、AV信理教教主、カーディガン作も反省する次第でした。)最後に、第3席・井上こき使われあつし先生による『逆玉ねらいのランバブ医師の1例』が報告され、Dr. K(仮称)の素性・将来の狙いが暴かれ、看護婦さん、秘書さん達はびっくりすると同時に、腹を抱えて笑い転げました。全題材とも、力作ぞろいで大変楽しめた様に思います。(演者の先生、お疲れさまでした。Dr. Kの野望には、今後注目していきたいと思います……?)その後、各部屋で夜を徹して宴会は続けられていたようです。

翌日は、北郷フェニックスカントリークラブでのゴルフと、蜂之巣キャンプ場でのレクレーションに分かれ、それぞれ楽しんでくれていたようです。ちなみに、今回優勝賞品として用意したゼブラ・バターは、川越先生の元にいきました。(関係者各位、残念でした。)

午後2時30分、ゴルフ・レクレーションと、それぞれの表彰を終え、一路、医大への帰りのバスに乗り込みました。バスの中は、昨日の睡眠不足のためか、みなさん疲れて、夢でも見ながら居眠りしていたようです。

何はともあれ、事故もなく無事、平成7年度医局旅行は、終了しました。

めでたし、めでたし～。



大学病院勤務第2ラウンド

渡部 正一

大学に戻って、はや4ヶ月が過ぎようとしている。せっかくだから、少し振り返ってみた。

〈7月〉

脊椎班末端としてドラフト外にて大学復帰。教授陪席 & 外勤先県立日南病院等という大役をおおせつかった。

帰りの日南海岸は、脱力感で反対車線走り気味。

〈8月〉

酷暑の中の野球大会に、2軍控え捕手として登場。右母指突き指による母指内転筋附着部剥離骨折（自己診断）にもめげず奮闘するが、自軍のころあたたまる罵声を浴びついに脱水状態となる。右握力低下は現在も完治せず（C佐先生に労災申請するも、“俺なんて歯まで出ってしまった”と一蹴される）。

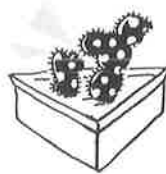
〈9月〉

教授外来予約制スタート。目標は、当初“一日患者数をコントロールすること”としていたが、某先生により“予約した患者は全て診ていただくこと”と変更された。また、H史先生もせっかくだけやる気を出していらっしゃるのだから、自分のできる範囲のことで応援したい。

〈10月〉

手術室にて日常会話不能となる。蓄積した疲労が原因か、急性腰痛出現。歩行困難となり患者にも同情を買うが、医者には同情されず。数日後、自然軽快。ゴルフスイングによるリハビリが必要とH川先生のご指示。

最後になりましたが、開業の先生方を始め各関連病院の先生方には、いつも大変お世話になっております。現在、田島教授一般外来は毎週水曜日のみ予約制にて行われております。先生方には、宜しくご配慮頂きますようお願いいたします。



新入医局員自己紹介 (順不同)



氏名 吉松成博

生年月日 昭和32年5月16日生

出身高校 日向学院高等学校

出身大学 東京医科大学

血液型 O 型

昭和61年に東京医科大学を卒業し、本年1月まで東京医大八王子医療センター麻酔科に勤務していました。平成7年3月1日付で、宮崎医科大学整形外科に入局し、3ヵ月の大学病院研修後、6月より国立都城病院勤務となりました。整形外科医となってまだ日が浅く、10年前麻酔医となった頃の様な新鮮な気持ちで、研修に励んでいる毎日です。

麻酔科在籍中は、麻酔はもちろんの事、ICUでの全身管理、ペインクリニック、高気圧酸素治療等いろいろな仕事に携わってきました。今後この経験を、整形外科医として生かしてゆきたいと思っています。当科のため、微力ながら誠心誠意、頑張ってゆきたいと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。



氏名 黒沢 治

生年月日 昭和39年12月23日生

出身高校 鹿児島県立鹿屋高等学校

出身大学 宮崎医科大学

血液型 B 型

宮医大整形外科に入局して早、半年が経ちました。現在、江南病院勤務をしています。

私の自己紹介を致しますと、平成2年3月に宮医大を卒業し、同年5月、鹿児島生協病院に勤務致しまして、今年4月に宮医大整形外科に入局しました。

整形外科の経験はなく毎日が勉強で最近、ようやく骨折や整形外科疾患の治療の流れがわかるようになって参りました。骨折では修復の大切さを実感し(特に関節内骨折)、外傷においては、今までX線で骨折がなければ捻挫の一言ですませていた事を恥ずかしく思い反省しています。そして整形外科の奥の深さを実感致しました。

又、スポーツをしている友人からスポーツ外傷時のアドバイスを求められ、少しずつではありますが答えられるようになった自分がうれしいです。少しでも早く整形外科的知識、技術を修得し、同門会の先輩方同

様に宮崎の医療に貢献できる様になりたいと考えております。これから末永い御指導宜しくお願い致します。



氏 名 安 藤 徹
生年月日 昭和44年11月30日生
出身高校 宮崎県立宮崎西高等学校
出身大学 宮崎医科大学
血液型 O 型

本年5月に入局して以来、はや5ヵ月が過ぎ、なんとか仕事に慣れてきたような気がします。初めの頃はなかなか仕事がスムーズにこなせなく、ハードな早朝野球練習も加わり、帰宅した時にはお風呂で汗を洗い落とすこともなく、眠りに入ってしまう日もたびたびありました。現在は脊椎班に属し、田島教授、平川講師のもとで、オーベンには多彩で個性的なキャラクターが売りものの作、渡部（正一）両先生といった超豪華スタッフの中で、仕事に精を出しています。

私が整形外科の道を志すことになった理由は、やはり、野球というスポーツをこの方20年愛し続けてきたということにあります。大学に入学してからは、野球部の顧問は田島教授ということで、大変お世話になってきました。また、整形外科に入局された野球部OB先生もたいへん多く、そのため、学生の頃はたびたび整形外科教室に足を運び、中をのぞかせてもらったこともありました。このように自分の中では、もっとも身近に存在していた整形外科であったような気がします。

今は、朝起きるのがつらかった早朝野球練習も OFF に入り、来年夏に宮崎で開催される整形外科野球大会に向けて充電期間を送っています。これからもまた、「野球の安藤」ということを売り物にそしてまた、今後とも同門会の先生方には、ご指導のほど宜しく願いたいと思っています。同門会の先生方にも早く名前を覚えていただきたいと思います。



氏 名 井 上 篤
生年月日 昭和43年6月19日生
出身高校 熊本県立玉名高等学校
出身大学 宮崎医科大学
血液型 O 型

入局して半年近くになり、病棟の雰囲気にもかなり慣れてきました。これまで診させて頂いた患者さんから学ぶことも多く、日々新たな経験をしています。振り返ると学生時代、地元熊本に帰郷するか、出身

大学である宮崎に残るか迷った時期を思い出します。しかし、医局の先生方の御指導の下、仕事面又、プライベートにおいてもいろいろ勉強させてもらい、後悔するようなことはありません。これからも、朝は野球で体を磨き、昼は仕事で頭を磨き、夜は酒場で男を磨き、自分を向上していくよう頑張っていきたいと思えます。

こんな私ですが、今後とも宜しくお願い致します。



氏 名 内 田 秀 穂
生年月日 昭和33年10月14日生
出身高校 宮崎県立宮崎大宮高等学校
出身大学 宮崎医科大学
血液型 A 型

宮医大整形外科教室に入局して約半年がたちました。毎日仕事と勉強に追いまくられ、あっという間の6か月でした。この6か月、「とつつあん」「秀じい」などと呼ばれながらも、暖かい先輩方の御指導をいただきなんとかやってこれたのを感謝しております。しかし、自分がこんなに真面目で働き者とは知りませんでした。これからもがんばります。



氏 名 田 爪 陽 一 朗
生年月日 昭和42年4月17日生
出身高校 宮崎県立宮崎西高等学校
出身大学 福岡大学
血液型 O 型

今年福岡大学を卒業し、入局させていただきました。博多ラーメン、もつ鍋に後ろ髪を引かれながらも、宮崎の暖かい気候、そして青い海と白い波が懐しくUターンしてまいりました。

入局して約半年、諸先輩方の御指導のもと、上肢グループ、下肢グループとローテイドさせていただきましたが、唯々、整形外科領域の広さに溜め息をつき、日々テキストと睨み合う毎日を送っています。

未熟者で、いつも皆様に御迷惑ばかりおかけしていますが、いつの日か同門の先生方に負けぬ、整形外科医になるよう猛進する気持でおりますので、今後も、御指導・御鞭撻いただければ幸いです。どうかよろしく願いいたします。

また、10月1日には、田島教授御夫妻及び皆様のおかげで無事結婚式を挙げる事が出来ました。本当に有り難うございました。



氏 名 谷 畠 満
生年月日 昭和45年2月13日生
出身高校 埼玉県立熊谷高等学校
出身大学 宮崎医科大学
血液型 A 型

今年宮崎医科大学を卒業し、入局させていただきました。高校生の時は硬式テニス部に所属し、また友達とバンドを組んで音楽活動をしていたので、大学では軽音楽部に所属し6年間続けてきました。その努力の甲斐があって6年生の時に自主制作のCDを出すことが出来、非常に充実した大学生活を過ごせたと思っています。

私が整形外科に入局しようと決めたのは、卒業試験が始まった頃だったと思います。学生時代にポリクリで整形を回ったときに興味を覚えたのと、医局の雰囲気がとても良かったのと、それに追い打ちをかけるように諸先生方の熱心な勧誘があり、晴れて入局願いを提出したわけですが、その後は何の迷いも悩みもなく国家試験の勉強に集中できたのを覚えています。

入局して5ヵ月が過ぎましたが、諸先生方や看護婦さん達にいろいろと助けてもらい、非常に充実し楽しく働かせてもらっています。入局してから始めた野球も少しずつですが上達の兆しも見え、西日本野球大会では2軍で優勝することもでき、非常にいい思い出になりました。

今やっと軌道に乗りかけたばかりの研修医生活ですが、一生懸命がんばっていきますので、同門会の先生方、今後ともご指導のほど宜しくお願い申し上げます。



氏 名 濱 中 秀 昭
生年月日 昭和45年12月2日生
出身高校 和歌山県立田辺高等学校
出身大学 宮崎医科大学
血液型 O 型

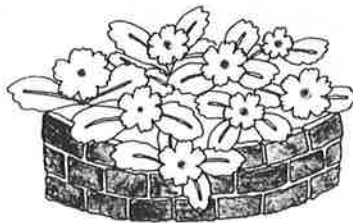
本年5月より研修医1年目として、宮崎医科大学整形外科に入局させていただきました濱中秀昭と申し上げます。中学校より卓球をはじめていたため、本学在学中には、卓球部に6年間在籍していましたが、スキー、テニス、バドミントンとその他のスポーツに打ちこんだ6年でした。

入局してから早くも半年すぎようとしていますが、いまだに、諸先生方に多大な迷惑をかけ、勉強不足を痛感しています。これからは、出来るだけ迷惑をかけないように頑張っていきたいと思いますので、同門会の先生方、今後ともご指導のほど宜しくお願い申し上げます。



氏 名 深野木 由 姫
生年月日 昭和44年 7 月 8 日生
出身高校 川崎医大附属高等学校
出身大学 川崎医科大学
血 液 型 A 型

今年の10月より、宮崎医大整形外科の医局にお世話になることになりました。岡山の川崎医大を卒業し、一年半の研修を受け郷里の宮崎へ帰ってきました。高校より岡山へ出ていた為、10年半ぶりの宮崎となりましたが、10月にハイビスカスの花の咲いているのを見て、帰ってきたのを実感しております。学生時代、一番嫌いな教科はというと、まっ先に解剖という答えが出ていたのに、仕事を始めるとひにくなことにそれに関係の深い整形に興味をもち、救急研修中（川崎はローテーション方式）など、腹痛を診察しながらうなり、骨折を診察しながらほほえむ自分がいました。まだまだ宮崎の土地が分からないのと一緒に（市内への行き方も分からず、皆様の御教授をいつもあおいでおります）、整形に関してもまだまだ知識がありませんが、同門会の先生方今後共、御指導のほど宜しくお願い申し上げます。



教室同門の研究業績

(1994. 1月～12月まで)

◆著 書

- 1 いわゆる腰痛症（急性腰痛症を含む）今日の治療指針 1994年版 私はこうして治療している
田島 直也
医学書院, P570, 1994, 東京.
- 2 アスレチックリハビリテーション
田島 直也 黒木 俊政
新図説臨床整形外科講座 14巻 スポーツ整形外科, 林浩一郎編集,
メジカルビュー社, P291, 1994, 東京.
- 3 Bone Grafts Using Fibrin Glue for Posterolateral Spinal Fusion and
Total Hip Replacement with Central Migration
N. Tajima S. Kuwahara S. Hirakawa K. Matsumoto
Orthopedic Surgery Maxillofacial Surgery, Volume4 P29-36,
1994, Springer - Verlag, Berlin.
- 4 機能性側弯他22項目分担執筆
田島 直也
整形外科科学辞典 東博彦他編集, 南江堂, 1994, 東京.
- 5 高校スポーツ選手にみられた足部痛—Cuboid syndromeを考慮して—
獅子目賢一郎 田島 直也 黒木 俊政
別冊整形外科 No. 25 足の外科・最近の進歩, 南江堂, P122-124,
1994, 東京.
- 6 仮性痛風—偽痛風、ピロリン酸カルシウム結晶沈着症、CPPD 結晶沈着症—
石川浩一郎 大平 卓
新図説臨床整形外科講座「リウマチとその周辺疾患」, メジカルビュー
社, 11巻: 163-173, 1994.

◆原 著

- 1 整形外科領域における高齢者の腰痛疾患に対するボルタレン[®] SR カプセルの使用経験
永井 孝文 田島 直也 桑原 茂 松本 宏一
谷口 博信 黒木 浩史 税所幸一郎 松田 寿義
植村 貞仁 柳園賜一郎 作 良彦
診療と新薬, 31 (2) 3-14, 1994.
- 2 第10回世界ベテランズ陸上競技選手権の医事運営を担当して
獅子目賢一郎 田島 直也 黒木 俊政
臨床スポーツ医学, 11 (4) 491-494, 1994.
- 3 脊椎側弯症の診断と側弯角の測定—質疑応答—
田島 直也 福田 健二
日本医事新報, No. 3655 P 137-138, 1994.
- 4 股関節における三次元的被覆度と応力解析
帖佐 悦男 田島 直也 鳥取部光司 長鶴 義隆
整形外科と災害外科, 43 (1) 130-134, 1994.
- 5 三次元有限要素法による腰椎の応力解析 (関節突起間部を3D-CT像と比較して)
坂本 武郎 田島 直也 平川 俊一 田代 宏一
帖佐 悦男 鳥取部光司
整形外科と災害外科, 43 (1) 138-141, 1994.
- 6 三次元有限要素法による腰椎の応力解析 (第3報: 椎間関節)
鳥取部光司 田島 直也 平川 俊一 田代 宏一
帖佐 悦男
整形外科と災害外科, 43 (1) 142-145, 1994.
- 7 腰椎疾患に対する下肢知覚神経活動電位の臨床的意義について (第一報)
松元 征徳 田島 直也 中村 誠司
整形外科と災害外科, 43 (1) 146-150, 1994.
- 8 DXA を用いたRA と非RA の骨粗鬆症の検討
渡部 正一 田島 直也 桑原 茂 帖佐 悦男
谷口 博信 麻生 邦典
整形外科と災害外科, 43 (1) 376-378, 1994.

- 9 柔道選手の膝関節障害—膝伸展・屈曲最大筋力について—
樋口 潤一 田島 直也 黒木 俊政 田辺 龍樹
園田 典生 松元 征徳
整形外科と災害外科, 43 (2) 616-618, 1994.
- 10 パルテス病に対する保存的治療の検討
大田 博人 長鶴 義隆 立山 洋司 田島 直也
整形外科と災害外科, 43 (2) 689-694, 1994.
- 11 腰痛の病態 その診断・治療について
田島 直也
延岡医学会誌, 9号, 39-42, 1994.
- 12 RAによる頸髄麻痺の病理学的検討
柳園賜一郎 桑原 茂 谷口 博信 田島 直也
日本パラプレジア医学会雑誌, 7 (1) 216-217, 1994.
- 13 老年者の主訴とプライマリ・ケア—腰痛, 関節痛を訴える場合—
田島 直也 桑原 茂
老化と疾患, 7 (5) 53-58, 1994.
- 14 高齢者腰痛症, 変形性膝関節症に対するロキソプロフェンナトリウムの有効性・安全性の検討
村田 潔 田島 直也 桑原 茂
Progress in Medicine 14 (6) 1657-1673, 1994.
- 15 柔道選手のスポーツ障害・外傷と筋力—腰部・膝関節を中心に—
黒木 俊政 田島 直也 樋口 潤一 園田 典生
蛭原 啓文 川添 浩史
九州スポーツ医・科学会誌, 6 : 45-48, 1994.
- 16 中・高年の脊椎のスポーツ傷害—特に腰部について—
田島 直也 黒木 俊政 樋口 潤一
九州スポーツ医・科学会誌, 6 : 167-170, 1994.
- 17 RA 頸椎に対する保存療法の限界
谷口 博信 桑原 茂 福田 健二 田島 直也
西日本脊椎研究会誌, 20 (1) 29-31, 1994.

- 18 RA 脊椎の骨粗鬆症に関する検討
 松岡 知己 田島 直也 平川 俊一 田代 宏一
 福田 健二 渡邊 信二
 西日本脊椎研究会誌, 20 (2) 123-125, 1994.
- 19 腰痛の理学療法
 田島 直也 平川 俊一
 臨床と研究, 71 (7) 58-60, 1994.
- 20 高齢者の骨とスポーツ外傷・障害—骨を中心とした中高年のスポーツ外傷・障害—
 田島 直也 桑原 茂
 Japanese Journal of Sports Sciences 13 (4) 455-458, 1994.
- 21 Chemonucleolysis におけるキモパインの至適濃度に関する基礎的検討
 久保紳一郎 田島 直也 桑原 茂 福田 健二
 谷口 博信 後藤 啓輔
 整形外科と災害外科, 43 (4) 1210-1212, 1994.
- 22 当科における頸部脊柱管拡大術の術後成績
 田辺 龍樹 田島 直也 平川 俊一 田代 宏一
 福田 健二 鳥取部光司
 整形外科と災害外科, 43 (4) 1250-1253, 1994.
- 23 腰椎後側方固定術の各種画像による術後判定の検討
 後藤 啓輔 田島 直也 平川 俊一 田代 宏一
 福田 健二 久保紳一郎
 整形外科と災害外科, 43 (4) 1336-1338, 1994.
- 24 RA 下肢多関節障害患者の歩行解析
 浪平 辰州 桑原 茂 谷口 博信 田島 直也
 黒田 宏 末永 治 山口 和正
 整形外科と災害外科, 43 (4) 1476-1478, 1994.
- 25 慢性関節リウマチにおける消化性潰瘍の検討
 長田 浩伸 森田 信二 田辺 龍樹 作 良彦
 木村 千仞
 整形外科と災害外科, 43 (4) 1479-1482, 1994.

26 Overuse injury の原因解析

渡邊 信二 田島 直也 黒木 俊政 谷口 博信
園田 典生 樋口 潤一
整形外科と災害外科, 43 (4) 1521-1523, 1994.

27 腰痛疾患のしびれ

田島 直也 桑原 茂
CLINICIAN, 41 (435) 81-84, 1994.

28 Total hip replacement for protrusio acetabuli in rheumatoid arthritis with bone transplantation combined with fibrin glue

Koichiro Saisho Kohei Ise Shigeru Kuwahara Naoya Tajima
Chihiro Kimura Takuro Sugano
Japanese journal of Rheumatology, 5 (3) 237-242, 1994.

29 School Screening for Scoliosis in Miyazaki Prefecture — Second Report —

Kenji Fukuda Naoya Tajima Shunichi Hirakawa
Koichi Tashiro Shinichiro Kubo Toshimasa Kuroki
Spinal Deformity, J. Jpn. Scoliosis Soc, 9 (1) 99-103, 1994.

30 Lumbar Disorders of Judo Players

Toshimasa Kuroki Naoya Tajima Junichi Higuchi
Jpn. J. Orthop. Sports Med., 14 (4) 387-390, 1994.

31 Lumbar Spondylolysis of Judo Players and Long Distance Runners

Toshimasa Kuroki Naoya Tajima Junichi Higuchi
Jpn. J. Orthop. Sports Med., 14 (4) 413-417, 1994.

32 Muscle Strength Characteristics of Knee and Trunk in Judo Players

Toshimasa Kuroki Naoya Tajima Junichi Higuchi
Jpn. J. Orthop. Sports Med., 14 (4) 418-422, 1994.

33 X線診断 Q & A

桑原 茂
整形外科, 45 (3) 323-324, 1994.

- 34 慢性関節リウマチ下位頸椎不安定症における脊髓障害発生の危険因子について
—単純X線及びMRI所見と病理所見の対比による検討—
谷口 博信 桑原 茂 福田 健二 黒木 龍二
田島 直也
臨床整形外科29 (7) 799-803, 1994.
- 35 脳性麻痺股関節脱臼の治療成績
長鶴 義隆 立山 洋司 大田 博人
日本小児整形外科学会誌, 3 (2) 235-241, 1994.
- 36 寛骨臼球状骨切り術 (Wagner 法)
長鶴 義隆 田島 直也 柏木 輝行 大田 博人
日整会誌, 68 (2) 227-228, 1994.
- 37 脱臼性股関節症に対する寛骨臼球状骨切り術 (SAO) の成績
長鶴 義隆
Hip Joint, 20巻:63-66, 1994.
- 38 大腿骨頭沁り症—画像診断による治療法の選択—
長鶴 義隆
関節外科 Special, 165:94-106, 1994.
- 39 電気生理学所見からみた脊椎と脊髓の関係
四宮 謙一 持田 潔 横山 正昭
脊椎脊髓ジャーナル, 7 (6) 409-413, 1994.
- 40 高校女子長距離選手のメディカルサポートの実態
獅子目賢一郎
日本臨床整形外科医学会誌, 19 (44) 126-138, 1994.

◆症 例

- 1 人工膝関節置換術後に膝蓋骨骨折を生じた2症例
税所幸一郎 坂本 康典 桑原 茂 田島 直也
木村 千仞
九州リウマチ, 13:145-147, 1994.

- 2 肥大した鎖骨により静脈怒張をきたしたと考えられる掌蹠疱症性骨関節症の1例
税所幸一郎 蛭原 啓文 坂本 康典 田島 直也
桑原 茂
九州リウマチ, 14:56-59, 1994.

◆その他

- 1 スポーツドクターレポート第19回日本整形外科スポーツ医学会学術集会
黒木 俊政
臨床スポーツ医学, 11(2)232-234, 1994.
- 2 慢性関節リウマチ—症状経過と治療—
桑原 茂
リウマチ診察室, 朝日新聞紙面24, 1994.

◆学会報告

- 1 投てき競技選手に発生した第一肋骨骨折
松岡 知己 田島 直也 黒木 俊政 樋口 潤一
第12回宮崎県スポーツ医学研究会, 1994, 2, 宮崎.
- 2 世界ベテランズ陸上参加選手の血液特性
樋口 潤一 田島 直也 黒木 俊政 田辺 龍樹
蛭原 啓文 松元 征徳
第12回宮崎県スポーツ医学研究会, 1994, 2, 宮崎.
- 3 カウザルギー様徴候を呈した腸骨異物の一例
蛭原 啓文 田島 直也 桑原 茂 黒木 俊政
渡邊 信二 押川紘一郎
第8回宮崎痛みの研究会, 1994, 2, 宮崎.
- 4 当科における自己血輸血使用例の検討
田辺 龍樹 田島 直也 帖佐 悦男 長鶴 義隆
第1回宮崎自己血輸血懇話会, 1994, 3, 宮崎.
- 5 NSAIDsによる消化管障害に対する lansoprazole の使用経験
桑原 茂
タケプロン(ランソプラゾール)学術講演会, 1994, 3, 宮崎.

- 6 キモパインの至適濃度に関する基礎的検討
久保紳一郎 田島 直也 福田 健二 谷口 博信
後藤 啓輔
第6回日本経皮的椎間板摘出術研究会, 1994, 3, 栃木.
- 7 肥大した鎖骨により静脈怒張をきたしたと考えられる掌蹠膿疱症性骨関節炎の1例
税所幸一郎 蛭原 啓文 桑原 茂 田島 直也
第7回日本リウマチ学会九州沖縄支部学術講演会(第44回九州リウマチ研究会), 1994, 3, 宮崎.
- 8 ランニングの医科学的考察
田島 直也
第6回日本ラグビー協会メディカルコミッティ総会特別講演,
1994, 3, 宮崎.
- 9 Spinal Instrumentation
田島 直也
平成5年度都城市郡医師会外科医会講演会, 1994, 3, 都城.
- 10 Pediatric Cervical Spine Injuries including Sports Trauma
Naoya Tajima
The 4th Sino-Japanese Orthopaedic Symposium. 1994, 4, Matsuyama.
- 11 乳房切除に対する早朝リハビリテーションの試み
日高 隆 田島 直也 平川 俊一 難波 清
第16回宮崎リハビリテーション研究会, 1994, 4, 宮崎.
- 12 十代スポーツ選手の保存的治療—特に腰痛体操について—
中村真由美 日高 隆 田島 直也 黒木 俊政
押川紘一郎
第16回宮崎リハビリテーション研究会, 1994, 4, 宮崎.
- 13 スポーツ競技者の健康について
田島 直也
平成6年度宮崎県高等学校体育連盟陸上競技専門部監督会議,
1994, 4, 宮崎.

- 14 Pediatric Cervical Spine Injuries Including Sports Trauma
Naoya Tajima Toshimasa Kuroki Junichi Higuchi
Spine Across the Sea, 1994, 4, Hawaii, U. S. A.
- 15 Isthmic Spondylolisthesis and Sports Injuries
Naoya Tajima Toshimasa Kuroki Junichi Higuchi
Spine Across the Sea, 1994, 4, Hawaii, U. S. A.
- 16 Transient Quadriplegia
Naoya Tajima Toshimasa Kuroki Junichi Higuchi
Spine Across the Sea, 1994, 4, Hawaii, U. S. A.
- 17 The Study on Chemonucleolysis by Means of Cathepsin L
Shinichiro Kubo Naoya Tajima Kenji Fukuda
Nobuhiro Katsunuma Yukio Fujisawa Toshiyuki Nomura
Spine Across the Sea, 1994, 4, Hawaii, U. S. A.
- 18 Three - Dimensional Finite Element Analysis on the Pass Interarticularis of Lumbar Vertebra
Koji Totoribe Naoya Tajima Shunichi Hirakawa Etsuo Chosa
Spine Across the Sea, 1994, 4, Hawaii, U. S. A.
- 19 Biomechanical Study of Interbody Screw Fixation and Clinical Results of PLIF with
Optifuse T. F. C. System
Shinichiro Kubo Naoya Tajima Shunichi Hirakawa
Kenji Fukuda Hiroshi Kuroki Koichi Honbu
Threaded Fusion Cage Symposium at Maui. 1994, 4, Hawaii, U. S. A.
- 20 RA 脊椎病変の経過に関連する因子
福田 健二 桑原 茂 谷口 博信 田島 直也
第38回日本リウマチ学会総会, 1994, 4, 東京.
- 21 RA 下肢機能障害の関連因子—大型床反力計を用いて—
浪平 辰州 谷口 博信 桑原 茂 田島 直也
黒田 宏 山口 和正
第38回日本リウマチ学会総会, 1994, 4, 東京.

- 22 Lumbar Spondylolysis of Judo Athletes and Long Distance Runners
Toshimasa Kuroki Naoya Tajima Junichi Higuchi
The Combined Meeting of Spinal & Paediatric Sections of W. P. O. A. &
Annual Meeting of the Association of Spinal Surgery, R. O. C., 1994, 4,
Taipei, Taiwan. R. O. C
- 23 The Use of the Segmental Square Instrumentation System (Tajima, 3S Instruments) in patients with
Spinal Disorder
Masanori Matsumoto Naoya Tajima Kenji Fukuda
Shinichiro Kubo Ryuji Tabe
The Combined Meeting of Spinal & Paediatric Sections of W. P. O. A. &
Annual Meeting of The Association of Spinal Surgery, R. O. C., 1994, 4,
Taipei, Taiwan. R. O. C
- 24 慢性関節リウマチ脊椎病変のMRI所見
桑原 茂 田島 直也 谷口 博信
第67回日本整形外科学会学術集会, 1994, 5, 仙台。
- 25 成人亜脱臼性股関節症に対する各種骨盤骨切り術の適応と限界—寛骨臼球状骨切り術(Wagner法)—
長鶴 義隆 黒田 宏 柏木 輝行 大田 博人
金井 一男 田島 直也
第67回日本整形外科学会学術集会, 1994, 5, 仙台。
- 26 全身的病変と脊椎病変—その関連と留意事項—
田島 直也 桑原 茂
第67回日本整形外科学会学術集会シンポジウム, 1994, 5, 仙台。
- 27 3S Instrumentation (田島式) による脊椎後方固定術の成績と適応について
田島 直也 久保紳一郎 福田 健二 田代 宏一
平川 俊一 桑原 茂
第67回日本整形外科学会学術集会, 1994, 5, 仙台。
- 28 中高年期のスポーツ傷害
田島 直也
第2回スポーツメディスンフォーラムイン仙台, 1994, 6, 仙台。

29 腰痛症について

田島 直也

都城市郡医師会内科医会, 1994, 6, 都城.

30 Muscle Strength Characteristics of Knee and Trunk in Judo Athletes

Toshimasa Kuroki Naoya Tajima Junichi Higuchi

The 3rd Korea—Japan Joint Meeting of Orthopaedic Sports Medicine,
1994, 5, Cheju, Korea.

31 Effect of Hematological Changes Immediately After Marathon Competition in Middle Aged Athletes

Naoya Tajima Toshimasa Kuroki Junichi Higuchi

The 3rd Korea—Japan Joint Meeting of Orthopaedic Sports Medicine,
1994, 5, Cheju, Korea.

32 Lumbar Injuries in Middle Aged Athletes

Junichi Higuchi Naoya Tajima Toshimasa Kuroki

The 3rd Korea—Japan Joint Meeting of Orthopaedic Sports Medicine,
1994, 5, Cheju, Korea.

33 Post Operative Results in Quadriplegia caused by Rheumatoid Arthritis

Taiichiro Yanagizono Naoya Tajima Shigeru Kuwahara

33rd Annual Scientific Meeting of the International Medical Society of
Paraplegia, , 1994, 6, Kobe.

34 当科における頸部脊柱管拡大術の術後成績—片開き式と棘突起縦割式との比較—

田辺 龍樹 田島 直也 桑原 茂 平川 俊一
第23回日本脊椎外科学会, 1994, 6, 神戸.

35 骨傷を呈したRA 上位頸椎病変

関本 朝久 田島 直也 桑原 茂 福田 健二
谷口 博信

第23回日本脊椎外科学会, 1994, 6, 神戸.

36 頸椎疾患における F-wave の臨床的意義 (第一報)

関本 朝久 田島 直也 平川 俊一 松元 征徳
中村 誠司

第87回西日本整形・災害外科学会, 1994, 6, 福岡.

37 上腕骨頸部骨折の治療経験

金井 一男 長鶴 義隆 黒田 宏 柏木 輝行
大田 博人

第87回西日本整形・災害外科学会, 1994, 6, 福岡.

38 RA 頸椎後方固定術後成績不良例の検討

黒木 龍二 桑原 茂 福田 健二 谷口 博信
津曲 孝康 浪平 辰州 田島 直也

第87回西日本整形・災害外科学会, 1994, 6, 福岡.

39 世界ベテランズ陸上競技大会参加選手の血液特性

樋口 潤一 田島 直也 黒木 俊政 松岡 知己
後藤 啓輔 関本 朝久

第87回西日本整形・災害外科学会, 1994, 6, 福岡.

40 RA 足関節病変に対する人工関節置換術の適応

金井 純次 戸田 勝 桑原 茂 田島 直也

第87回西日本整形・災害外科学会, 1994, 6, 福岡.

41 当科における MRSA 院内感染症例の検討

黒木 浩史 田島 直也 平川 俊一 久保紳一郎
田辺 龍樹 松元 征徳 本部 浩一

第87回西日本整形・災害外科学会, 1994, 6, 福岡.

42 地域におけるスポーツドクターの役割—宮崎県の場合—

黒木 俊政 田島 直也

第20回日本整形外科スポーツ医学会パネルディスカッション,
1994, 6, 弘前.

43 中高年マラソン選手の持久性運動前後の血液特性

川添 浩史 田島 直也 黒木 俊政 樋口 潤一

第20回日本整形外科スポーツ医学会, 1994, 6, 弘前.

44 中高年のスポーツ障害

田島 直也

平成6年度第2回大分県整形外科臨床整形外科医会, 1994, 6, 大分.

- 45 中高年のランニングによるスポーツ障害
田島 直也
学術講演会, 1994, 6, 徳島.
- 46 腰椎疾患—椎間板ヘルニアと分離症について—
田島 直也
日本医大リウマチ科第12回関節疾患懇話会, 1994, 6, 東京.
- 47 RA 脊椎病変における造影MRI 所見
本部 浩一 桑原 茂 谷口 博信 平川 俊一
田辺 龍樹 久保紳一郎 田島 直也
第41回西日本脊椎研究会, 1994, 6, 高知.
- 48 骨粗鬆症について
田島 直也
清武町健康教育講演会, 1994, 6, 清武.
- 49 ゴルフによる頸椎棘突起骨折
黒木 龍二 田島 直也 桑原 茂 黒木 俊政
樋口 潤一 押川紘一郎
第13回宮崎県スポーツ医学研究会, 1994, 7, 宮崎.
- 50 スポーツによる剝離骨折
坂本 武郎 永田 高見 谷脇 功一 木屋 博昭
弓削 孝雄 藤本 徹 大江浩一郎
第13回宮崎県スポーツ医学研究会, 1994, 7, 宮崎.
- 51 腰椎疾患における下肢知覚神経活動電位 (SNAP) および複合筋活動電位 (CMAP) の術前後の比較検討
黒木 浩史 田島 直也 平川 俊一 久保紳一郎
松元 征徳 関本 朝久 本部 浩一
第5回宮崎脊椎・脊髄研究会, 1994, 7, 宮崎.
- 52 中学・高校生スポーツ選手の腰痛に対する運動療法の効果
黒木 俊政 田島 直也 樋口 潤一 押川紘一郎
第6回日本理学診療医学会, 1994, 7, 横浜.

- 53 手指に発症した Peritendinitis calcarea の一例
 柏木 輝行 長鶴 義隆 黒田 宏
 第28回宮崎整形外科懇話会, 1994, 7, 宮崎.
- 54 仮骨延長法 (Callotasis) による前腕延長を行った1例
 矢野 浩明 戸田 勝 金井 純次 飯干 明
 田島 直也
 第28回宮崎整形外科懇話会, 1994, 7, 宮崎.
- 55 当科における MRSA 感染症例の検討
 福元 洋一 田島 直也 桑原 茂 平川 俊一
 久保紳一郎 田辺 龍樹 黒木 浩史 本部 浩一
 第28回宮崎整形外科懇話会, 1994, 7, 宮崎.
- 56 膝関節滑膜肉腫の治療経験
 山本恵太郎 田島 直也 桑原 茂 福田 健二
 津曲 孝康
 第28回宮崎整形外科懇話会, 1994, 7, 宮崎.
- 57 大腿骨頸部外側骨折に対する Gamma nail の使用経験
 渡部 正一 川越 正一 園田 典生 田島 直也
 第28回宮崎整形外科懇話会, 1994, 7, 宮崎.
- 58 頸椎片開き式脊柱管拡大術の長期成績
 本部 浩一 田島 直也 平川 俊一 久保紳一郎
 田辺 龍樹 黒木 浩史 松元 征徳 福元 洋一
 第28回宮崎整形外科懇話会, 1994, 7, 宮崎.
- 59 脊椎のスポーツ障害
 田島 直也
 第3回痛みと炎症のフォーラム, 1994, 7, 福岡.
- 60 スポーツ障害について
 田島 直也
 平成6年度九州ブロック養護教諭実技講習会, 1994, 8, 宮崎.

- 61 中高年の整形外科領域におけるスポーツ障害
田島 直也
第5回安比夏季セミナー, 1994, 8, 岩手.
- 62 成長期のスポーツ障害
黒木 俊政
南那珂郡医師会講演会, 1994, 8, 日南市.
- 63 骨盤骨折における急性期創外固定の有用性
川越 正一 園田 典生 濱田 浩明 田島 直也
第4回宮崎救急医学会, 1994, 8, 宮崎市.
- 64 中高年のスポーツ障害
田島 直也
第59回愛媛整形外科集談会, 1994, 9, 松山市.
- 65 RA 股関節に対する Precision 型人工股関節置換術の中期成績
税所幸一郎 森田 信二 田島 直也 桑原 茂
第22回リウマチ関節外科学会, 1994, 9, 東京.
- 66 少年期におけるスポーツ活動とスポーツ障害
黒木 俊政
平成6年度宮崎県スポーツ少年団指導者研究協議会, 1994, 9, 宮崎市.
- 67 Lumbar Sports Injuries of Middle Aged Athletes
Naoya Tajima Toshimasa Kuroki Junichi Higuchi
First Asian Orthopedic Sports Symposium, 1994, 9, Hiroshima.
- 68 10jährige Erfahrungen mit der sphärischen Pfannenosteotomie nach Wagner für
Dysplasiecoxarthrosen.
Nagatsuru. Y Kurod. H Yano. H Tajima.N
8. Deutsch-Japanischen Orthopädentagung, 1994, Okt, Wiesbaden.
- 69 ランニングの医・科学的考察
田島 直也
学術講演会, 1994, 11, 岡山.

- 70 Evaluation of the upper cervical spine by MR imaging in patients with RA
Shigeru Kuwahara
France-Japan 3d' Orthopedie, 1994, 11, Paris, France.
- 71 RA 上位頸椎病変の 3-D CT 所見
永井 孝文 桑原 茂 津曲 孝康 柏木 輝行
山本恵太郎 田島 直也
第88回西日本整形・災害外科学会, 1994, 11, 大分.
- 72 腰椎疾患における膀胱機能の評価検討
黒木 浩史 田島 直也 平川 俊一 久保紳一郎
田辺 龍樹 西 昇平 (泌尿器科) 山口 孝則 (同)
長田 幸夫 (同)
第88回西日本整形・災害外科学会, 1994, 11, 大分.
- 73 T. F. C Screw System を用いた PLIF の小経験と力学的検討
久保紳一郎 田島 直也 平川 俊一 黒木 浩史
第88回西日本整形・災害外科学会, 1994, 11, 大分.
- 74 滑膜肉腫の治療経験
津曲 孝康 桑原 茂 福田 健二 柏木 輝行
山本恵太郎 田島 直也
第88回西日本整形・災害外科学会, 1994, 11, 大分.
- 75 脊椎とスポーツ
田島 直也
三木会講演会, 1994, 11, 旭川.
- 76 RA 頸椎病変の MRI 所見
永井 孝文 桑原 茂 帖佐 悦男 谷口 博信
柏木 輝行 田島 直也
第10回宮崎県リウマチ研究会, 1994, 12, 宮崎.
- 77 持久性運動による Lactate Dehydrogenase (LDH) の変化
黒木 俊政 田島 直也 樋口 潤一 濱田 稔 (衛生学)
第7回九州スポーツ医・科学会, 1994, 12, 福岡.

- 78 世界ベテランズ陸上競技大会における医事活動
樋口 潤一 田島 直也 黒木 俊政
第7回九州スポーツ医・科学会, 1994, 12, 福岡.
- 79 コラーゲン投与による実験的間質性肺臓炎
税所幸一郎
第1回九州リウマチフォーラム, 1994, 12, 熊本市.
- 80 診断に難渋したアレルギー性亜敗血症の1例
山本恵太郎 桑原 茂 帖佐 悦男 谷口 博信
柏木 輝行 永井 孝文 田島 直也 岡田 光司
第29回宮崎整形外科懇話会, 1994, 12, 宮崎.
- 81 Ender 法による大腿骨頸部外側骨折の治療成績の検討
矢野 浩明 長鶴 義隆 黒田 宏
第29回宮崎整形外科懇話会, 1994, 12, 宮崎.
- 82 強直性脊椎疾患に上位頸椎病変を合併した2例
福元 洋一 田島 直也 平川 俊一 久保紳一郎
田辺 龍樹 黒木 浩史
第29回宮崎整形外科懇話会, 1994, 12, 宮崎.
- 83 硬膜内髄外脊髄腫瘍15例の治療経験
後藤 啓輔 徳久 俊雄 佐本 信彦 小林 邦雄
高妻 雅和 松本 光司
第29回宮崎整形外科懇話会, 1994, 12, 宮崎.
- 84 諸塚村における振動病の実態
末永 治 桑原 茂 田島 直也
第29回宮崎整形外科懇話会, 1994, 12, 宮崎.
- 85 股関節症の発症進展因子に関するX線学的検討
長鶴 義隆 黒田 宏 矢野 浩明
第21回日本股関節学会, 1994, 10, 長崎市.
- 86 人工膝関節置換術直後に発症した急性膝窩動脈閉塞症の1例
大平 卓
第10回宮崎県リウマチ研究会, 1994, 12, 宮崎市.

- 87 Prognosis of symptomatic Lumbar Intervertebral Disc Herniation
H. Komori O. Nakai A. Okawa H. Yoshida M. Yokoyama
International society for the study of the Lumbar spine, 1994,
6, Seattle.
- 88 働く女性のスポーツへの関心度調査
獅子目賢一郎
第12回宮崎県スポーツ医学研究会, 1994, 2, 宮崎.
- 89 高校女子長距離選手のメディカルサポートの実態
獅子目賢一郎
第7回JCOA学会, 1994, 6, 宇都宮.
- 90 高校ボクシング選手のメディカルサポートの問題点
獅子目賢一郎
第13回宮崎県スポーツ医学研究会, 1994, 7, 宮崎.
- 91 踵骨超音波密度測定による慢性関節リウマチ患者の小検討
平部 久彬
第10回宮崎県リウマチ研究会, 1994, 12, 宮崎.
- 92 自動車乗用中に生じる腰痛に関する小規模アンケート調査
平部 久彬
第29回宮崎整形外科懇話会, 1994, 12, 宮崎.

過去の同門会誌に未掲載の分です。(文頭の番号はその年度に継続してつけています。)

(1993年分)

◆原著及び論文

38 脊髄刺激によって誘発された上肢末梢神経誘発電位

四宮 謙一 持田 潔 小森 博達 松岡 正

横山 正昭

脊椎脊髄ジャーナル, 6 (2) 121-125, 1993.

編 集 後 記

同門会誌の締切日を過ぎて、この後記を書いております。今年は阪神大震災にはじまりサリン事件その後も天変地異が少なからず取りざたされておりますが、同門、医局においては比較的平穏な年で特に大きな変化はなかったように思えます。久しぶりに入局者が9人と多く医局も活気づいている感がありますが、若い医局員が多くなると多くの個性が集まるため、ともすればバラバラになりがちですが、今年の入局者はおおむねバランスのとれた人達で今のところうまくいっているようです。また、賛助会へは地域医療に長いことご活躍されておられます先生方に入会していただきました。これからはより親しくおつき合いさせて頂くこととなります。よろしくお願い致します。

さて、来年は日本側弯症学会が田島教授を会長として宮崎の地で開催され、またその後もいくつかの学会開催が予定されております。田島教授の学会での活躍が評価されてのことで喜ばしい限りではあります。同門の先生方には物心両面でのご援助をお願いすることになるかと思えます。医局員も張り切って準備に取りかかっておりますので、先生方にもご協力のほど心よりお願い致します。最後になりましたが、玉稿をお寄せ頂きましたこと編集担当として厚く御礼申し上げます。今後とも同門会発展のためによりよくご協力のほどお願い申し上げます。

(桑原 記)

宮崎医大整形外科学教室

同 門 会 誌

発 行 日 平成7年12月
発 行 者 宮崎医科大学整形外科学教室同門会
編集責任者 桑 原 茂
印 刷 者 (資)愛 文 社 印 刷 所